

世界主要国の2008年鉄鋼需給見通し

— 2008年1月見通し —

2008年2月
(社)日本鉄鋼連盟
輸出市場調査委員会

《 目 次 》

調査結果の概要	2 頁
・ 世界経済	7 頁
・ 世界鉄鋼需給	
A . 鉄鋼需要	1 0 頁
B . 鉄鋼生産	1 6 頁
C . 鋼材輸出	1 8 頁
D . 鋼材輸入	2 0 頁
(参考) 主な設備新增設・閉鎖の動き	2 2 頁

調査メンバー（輸出市場調査委員会 小委員会委員）

中西 真佐裕	住友商事(株)	自動車金属製品本部副本部長(小委員会委員長)
長友 球生	伊藤忠丸紅鉄鋼(株)	経営企画部部長代行
淵上 幸吉	住友商事(株)	金属総括部次長
宇都宮 毅彦	三井物産(株)	鉄鋼製品本部業務部企画業務室次長
中西 敏明	(株)メタルワン	経営企画部統括ユニットリーダー

(順不同・敬称略、2008 年 2 月初現在)

調査対象国

東南アジア (10 カ国)	中国、韓国、台湾、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピン、ベトナム、インド
中近東 (3 カ国)	イラン、サウジアラビア、アラブ首長国連邦(U.A.E.)
欧 州 (1 地域、4 カ国*)	EU (27)、*ドイツ、*チェコ、
(*うち EU 加盟国 2 カ国)	ノルウェー、トルコ
C I S (2 カ国)	ロシア、ウクライナ
北米 (2 カ国)	米国、カナダ
中南米 (2 カ国)	メキシコ、ブラジル
オセアニア (1 カ国)	豪州

調査方法および調査の前提

調査対象国については、東京サイドでデータを収集・整理した後、小委員会メンバー商社現地店にアンケート調査を実施し、回収後その内容を分析した。なお、アンケート回答作成の前提条件として、2007 年 11 月末現在の為替、金利水準、原油価格をベースとする、2008 年中に長期的戦争の勃発など重大な国際情勢の変化はないものとする、の 2 点を定めた。

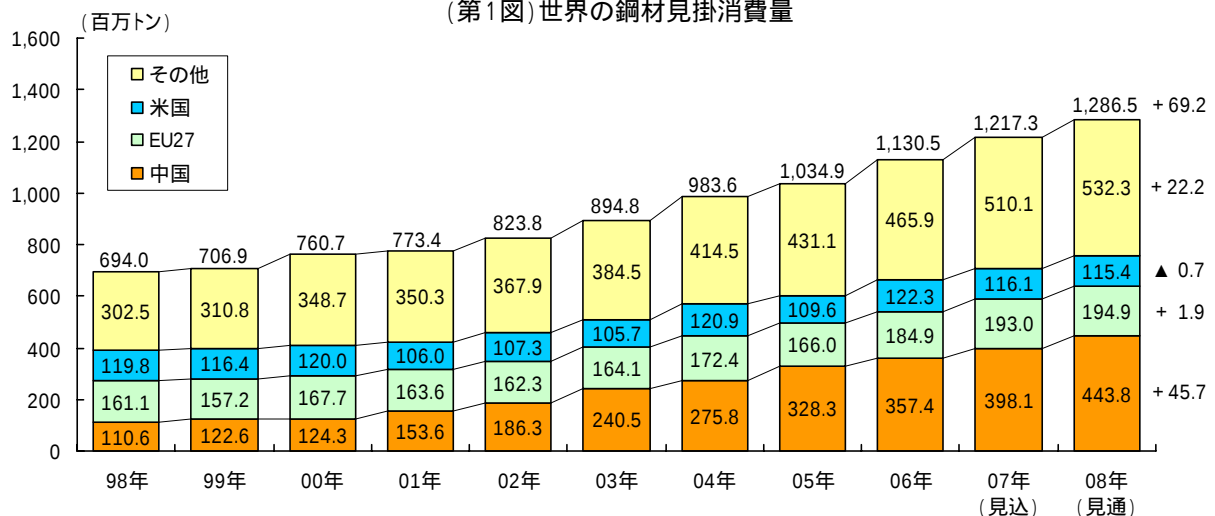
アンケート調査実施時期

2007 年 11 月 30 日(金)発送～2008 年 1 月 11 日(金)回収

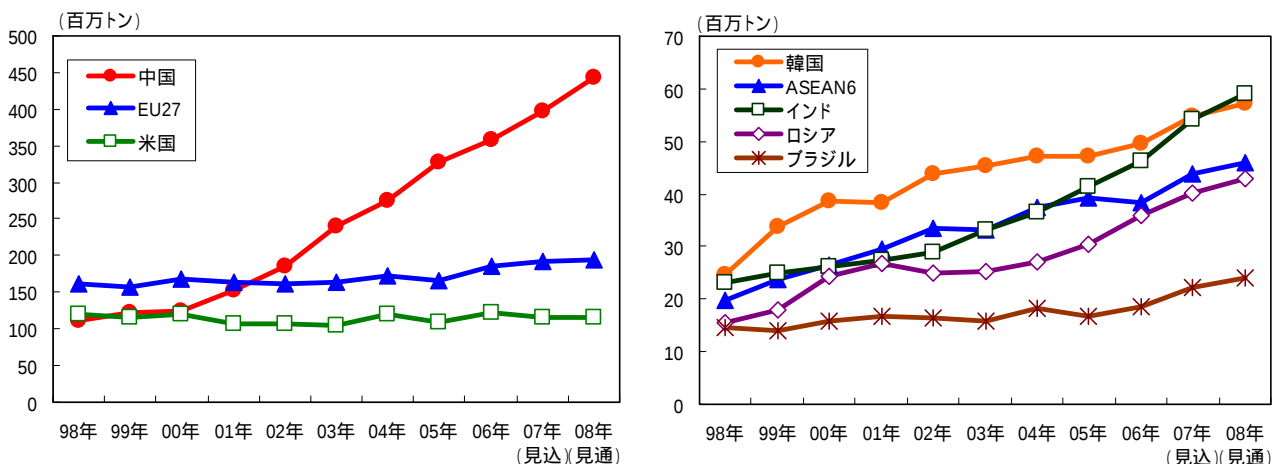
【調査結果の概要】

- 世界経済は 07 年に続いて 08 年も底堅い成長が続くものと予想されているが、07 年夏以降の金融市場の混乱や原油価格高騰等の影響がここに来て米国など先進諸国の実体経済にも現れ始めた。足下、安定成長を維持している新興経済国・資源国も含めて、世界経済の先行きに対する下振れリスクが懸念されている。
- 2007 年の世界の鋼材見掛消費は、前年比 7.7%・8,680 万トン増の 12 億 1,730 万トンと過去最高を更新する見込みである。国・地域別にみると、高い経済成長率が続く中国で大幅増となったほか、インド・ロシア・ブラジルなど新興経済国、資源国で需要の拡大がみられた。欧米では、EU 市場は堅調を維持したが、米国はサブプライム・ローン問題から住宅関連を中心に需要が鈍化した。
- 2008 年の世界の鋼材見掛消費は、前年比 5.7%・6,920 万トン増の 12 億 8,650 万トンと、前年と比べて伸びは鈍化するものの、新興国を中心に需要は底堅いことから、引続き増加を辿ると予想される。国・地域別にみると、中国は、輸出抑制策による輸出減を旺盛な内需でカバーする形で国内見掛消費は高い伸びが予想される。また、その他の新興経済国、資源国も堅調な景気に支えられて拡大局面が続くと予想される。一方、EU 市場は堅調を維持するも増勢が鈍化するほか、米国では需要の低迷から、前年に引続き見掛消費は減少する見通し。

(第1図) 世界の鋼材見掛消費量

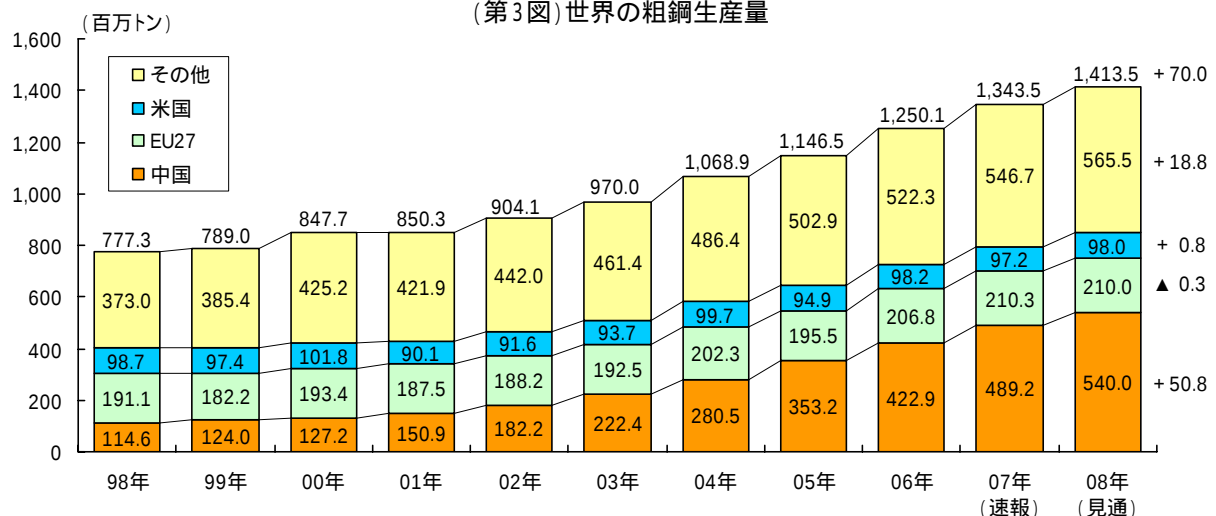


(第2図) 主要国・地域の鋼材見掛消費量

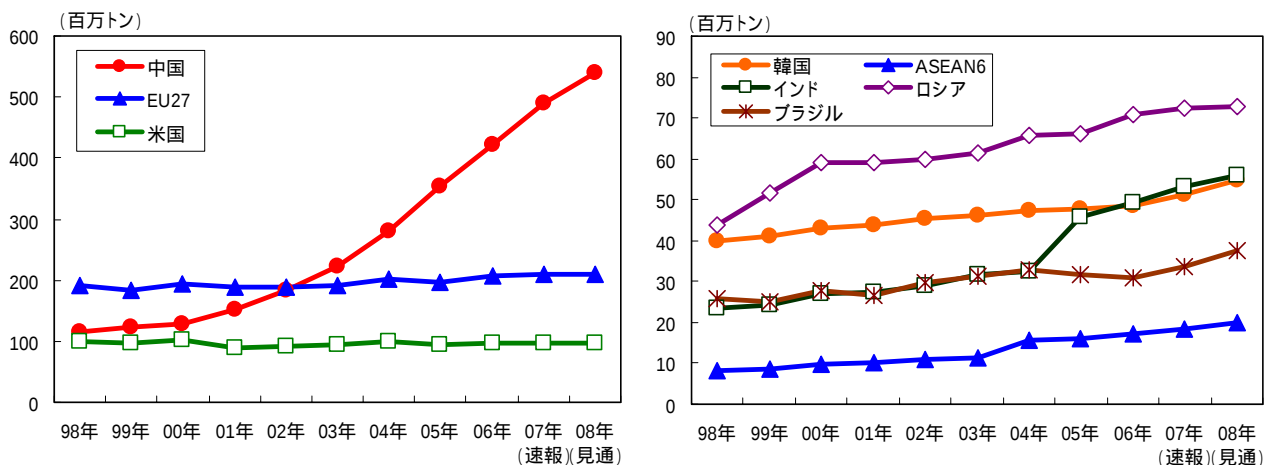


- 2007 年の粗鋼生産(速報値)は、世界全体で同 7.5%・9,330 万トン増の 13 億 4,350 万トンと過去最高を更新した。特に、生産量トップの中国は、建設・製造業向けとともに需要が好調を維持する中、引続き生産能力は拡大を辿っており、世界の粗鋼増産量の約 7 割を占めるに至った。また、韓国、インド、ブラジルなどその他の主要製鉄国でも生産量が増加するなど、多くの国で粗鋼生産は前年水準を上回った。
- 2008 年の世界の粗鋼生産は同 5.2%・7,000 万トン増の 14 億 1,350 万トンと、増勢は鈍化するものの、新興国の需要増や生産能力増強を受けて、引続き増加を辿る見通しである。内訳をみると、中国は、旧式設備の淘汰が進展しつつあるものの、08 年には約 5 千万トンの製鋼能力増強が予定され、また、旺盛な内需のもとで各メーカーとも依然として増産意欲が強いこともあり、前年比約 10%の増加が予想されている。その他、東南～南アジア、中東、南米などの新興市場では、引続き鉄鋼需要が堅調に推移すると見られる中で、鉄鋼生産設備への投資も各地で進展しており、多くの国で増産が予想されている。一方、足下、景気の先行き不透明感が広がる欧米地域の通年の粗鋼生産は前年並みに止まる見通しである。

(第3図) 世界の粗鋼生産量



(第4図) 主要国・地域の粗鋼生産量



主要市場別の 2008 年見通し

(1) 中国

- 需要：政府の引き締め策にも拘らず、経済は過熱気味に推移している。北京オリンピック開催年でもあり、景気を急激に冷やす政策は採り難く、建設、製造業とも引き続き高水準で推移する見通し。
- 生産：旧式設備能力を淘汰する一方、5千万トン規模の製鋼能力の増加が予定されており、旺盛な国内需要を背景に高水準の生産が続く見通し。
- 輸出：前年上期にかけての激増による欧米諸国での通商問題化等から抑制基調を強めており、減少に転じる見通し。
- 輸入：輸出抑制、新規ラインの稼働等から汎用品のみならず、高グレード材でも輸入代替が徐々に進展することから引き続き漸減傾向を辿る見通し。

(単位：100万トン、%)

	2006 年 (実績)		2007 年 (見込み)		2008 年 (見通し)	
		伸び率		伸び率		伸び率
鋼材見掛消費	357.4	8.9	398.1	11.4	443.8	11.5
粗鋼生産	422.9	19.7	489.2	15.7	540.0	10.4
鋼材生産 (*)	460.2	21.8	564.6	22.7	620.0	9.8
鋼材輸出 (含半製品)	50.4	90.7	66.9	32.8	54.0	▲ 19.3
鋼材輸入 (含半製品)	19.0	▲ 30.2	17.2	▲ 9.4	17.1	▲ 0.6

注) 鋼材生産には次工程用の重複分を含む。

(2) 韓国

- 需要：建設は新都市開発など公共部門を中心に増加し、製造業は造船・自動車等を中心に成長が見込まれる。鉄鋼需要は引き続き拡大する見通し。
- 生産：POSCO の高炉巻替え工事に伴う減産の予定は無く、現代製鉄、韓国鉄鋼、大韓製鋼での電炉稼働等もあって引続き増加を辿る見通し。
- 輸出：韓国鉄鋼協会の予想では、引き続き 07 年並みの 5～6% の伸びとなると見られている。仕向先としては、アジア・中近東向けが増加すると予想される。
- 輸入：輸出抑制策等を受けて中国からの輸入は鈍化も、リローラーメーカーからの熱延コイル需要や造船メーカーからの厚板需要は引続き旺盛で、輸入は高水準で推移する見通し。

(単位：100 万トン、%)

	2006 年 (実績)		2007 年 (見込み)		2008 年 (見通し)	
		伸び率		伸び率		伸び率
鋼材見掛消費	49.6	5.3	54.8	10.5	57.1	4.2
粗鋼生産	48.5	1.3	51.4	6.0	54.6	6.3
鋼材輸出 (含半製品)	17.8	11.4	18.6	4.8	19.7	5.6
鋼材輸入 (含半製品)	22.1	18.9	26.0	17.5	26.4	1.7

(3) 台湾

- 需要：LCD 工場など一部の民間投資案件が始動することが予想され、鋼材需要は前年に比べて若干回復する見通しである。
- 生産：内需が若干回復する中、粗鋼生産も引続き緩やかな増加を辿ると予想される。
- 輸出：欧州・中国向けが減少も、長期不振であった米国向けが年後半より徐々に回復を辿ることや、東南アジア向けが好調を維持することから、通年では前年比若干増となる見通し。
- 輸入：中国の輸出政策の安定化、半製品と製品の価格アンバランスが徐々に解消されることに伴い半製品の輸入が回復し始める。従来水準には及ばないものの、増加に転じる見通し

(単位：100 万トン、%)

	2006 年 (実績)		2007 年 (見込み)		2008 年 (見通し)	
		伸び率		伸び率		伸び率
鋼材見掛消費	19.8	▲ 0.5	19.1	▲ 3.4	20.2	5.5
粗鋼生産	20.1	8.2	20.7	2.8	21.2	2.5
鋼材輸出 (含半製品)	10.5	14.6	10.2	▲ 2.8	10.5	2.6
鋼材輸入 (含半製品)	10.6	▲ 4.2	8.7	▲ 17.7	9.5	9.2

(4) タイ

- 需要：政情不安等から 06 年～07 年に停滞した鋼材需要は、08 年には好転してくる見通し。
- 生産：鋼材生産は建設用棒鋼や熱延コイルを中心に小幅な増加となる見通し。
- 輸出：原料高、パーツ高で採算は厳しいものの、08 年には若干増が見込まれる。
- 輸入：内需の増加に伴い鋼材輸入も増加に転ずる見込み。

(単位：100 万トン、前年比増減率 %)

	2006 年 (実績)		2007 年 (見込み)		2008 年 (見通し)	
		伸び率		伸び率		伸び率
鋼材見掛消費	12.9	▲9.0	12.6	▲2.2	13.2	4.9
粗鋼生産	5.2	0.9	5.5	5.0	5.8	5.1
鋼材輸出 (含半製品)	2.2	4.9	2.8	26.2	2.9	4.6
鋼材輸入 (含半製品)	11.2	▲10.5	10.5	▲6.9	11.2	7.1

(5) インド

- 需要：鉄道、道路網等インフラ整備が急ピッチで進むとともに個人住宅、オフィス建築も盛んで、建設向け需要が旺盛。自動車向けも好調であり、08 年鋼材内需も全体として堅調な伸びが続くと予想される。
- 生産：鉄鋼プロジェクトが多数計画されるなかで停滞例も少なくないが、全国鉄鋼生産能力は着実に拡大しており、生産量の増加も継続する見込み。
- 輸出：ルピー高、旺盛な内需を背景に 07 年には伸び悩んだ。08 年も若干増程度に止まる見通し。
- 輸入：需給タイトな建設用鋼材や、電磁、自動車用鋼板、特殊鋼、ステンレス等高級鋼を中心に増加が続くものと予想される。

(単位：100 万トン、%)

	2006 年 (実績)		2007 年 (見込み)		2008 年 (見通し)	
		伸び率		伸び率		伸び率
鋼材見掛消費	46.1	11.4	54.2	17.5	59.0	8.9
粗鋼生産	49.5	8.0	53.1	7.3	56.0	5.5
鋼材輸出 (含半製品)	6.8	21.1	7.0	2.6	7.2	2.9
鋼材輸入 (含半製品)	5.8	11.3	8.2	40.4	8.7	6.3

(6) 米国

- 需要：住宅建設や自動車は年後半まで回復する可能性は小さく、鋼材需要は前年比若干減となる見通し。
- 生産：サブプライム問題等景気先行き不透明感もあって内需は伸び悩むも、流通在庫積み増しの動きもあって微増する見通し。
- 輸出：輸出環境に基調の変化は見られず、市況回復によるスポット輸出等の減少もあるが、前年並みに止まる見込み。
- 輸入：年後半に増加する見込みであるが、通年では前年を 1 割程度下回る見通し。

(単位：100 万トン、%)

	2006 年 (実績)		2007 年 (見込み)		2008 年 (見通し)	
		伸び率		伸び率		伸び率
鋼材見掛消費	122.3	11.6	116.1	▲5.1	115.4	▲0.6
粗鋼生産	98.2	3.5	97.2	▲1.0	98.0	0.8
鋼材輸出 (含半製品)	8.8	▲2.1	10.3	16.2	10.3	0.0
鋼材輸入 (含半製品)	41.1	41.0	29.4	▲28.3	26.3	▲10.6

(7) 欧州 (EU27)

- 需要：域内鋼材需要は 08 年も引続き底堅く推移するが、その伸びは鈍化する見込み。
- 生産：需要の伸びの鈍化を受けて、域内の生産は横ばい程度に止まる見通し。
- 輸出：08 年には域内ミルの輸出余力が強まり、新興国、産油国向け中心に増加が見込まれるが、ユーロ高傾向から全体として小幅な増加に止まるとみられる。
- 輸入：域内需要の伸び鈍化に加えて、AD 提訴の動きを受けてアジア勢の攻勢が弱まることなどから、08 年には鋼材輸入は小幅ながら減少に転ずるとみられている。

(単位：100 万トン、%)

	2006 年 (実績)		2007 年 (見込み)		2008 年 (見通し)	
		伸び率		伸び率		伸び率
鋼材見掛消費	184.9	11.4	193.0	4.4	194.9	1.0
粗鋼生産	206.8	5.8	210.3	1.7	210.0	▲ 0.2
鋼材輸出 (含半製品)	33.1	▲ 3.9	31.8	▲ 4.0	32.3	1.4
鋼材輸入 (含半製品)	40.0	47.4	49.2	22.9	48.1	▲ 2.2

(8) ロシア

- 需要：エネルギー関連の好調や高速鉄道敷設などもあって前年比増加する見通し。
- 生産：内需は好調を持続、生産は高水準を持続する見込み。
- 輸出：ルーブル高やフレート高から、輸出競争力は相対的に低下し、前年比減少する見通し。
- 輸入：国内需要の拡大を反映しつつ増加する見込み。

(単位：100 万トン、%)

	2006 年 (実績)		2007 年 (見込み)		2008 年 (見通し)	
		伸び率		伸び率		伸び率
鋼材見掛消費	36.0	18.4	40.0	11.1	43.0	7.4
粗鋼生産	70.8	7.1	72.2	2.0	72.9	0.9
鋼材輸出 (含半製品)	30.1	▲ 4.7	28.8	▲ 4.2	27.6	▲ 4.0
鋼材輸入 (含半製品)	5.9	24.9	7.7	30.5	8.9	15.0

(9) ブラジル

- 需要：自動車は昨年に続いてフル生産が見込まれるなど、鉄鋼需要は建設・製造業向けともに高水準を維持する見通し
- 生産：ArcelorMittal Tubarao (旧 CST) の 3 号高炉が 07 年 7 月、Acominas の 2 号高炉が 07 年末に稼動するなど能力増強が続いており、粗鋼生産は高い伸びが予想される。
- 輸出：内需好調から最終鋼材は前年並みに止まるものの、高炉稼動を受けて半製品輸出が拡大し、全体でも前年を上回る見通し。
- 輸入：国内需要の拡大を反映して、流通業者、問屋向けを中心に増加する見通し。

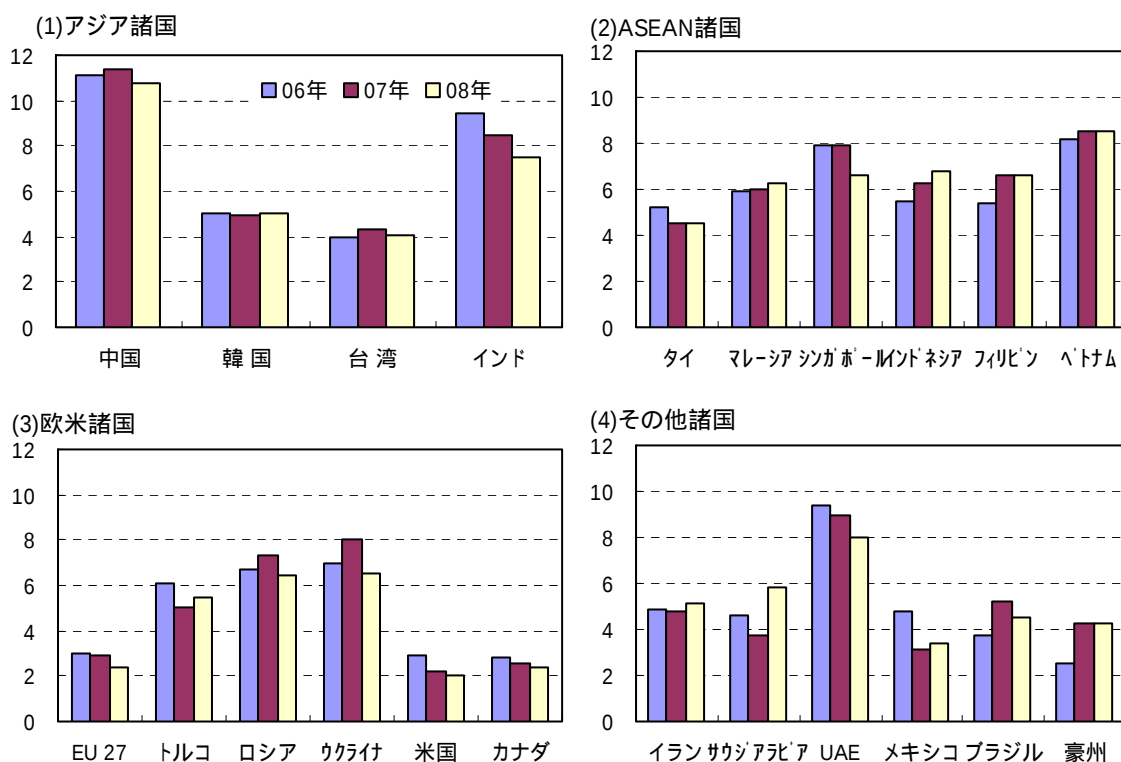
(単位：100 万トン、%)

	2006 年 (実績)		2007 年 (見込み)		2008 年 (見通し)	
		伸び率		伸び率		伸び率
鋼材見掛消費	18.5	10.3	22.1	19.2	24.0	8.6
粗鋼生産	30.9	▲ 2.2	33.8	9.3	37.6	11.3
鋼材輸出 (含半製品)	12.5	0.0	10.3	▲ 17.7	12.4	20.4
鋼材輸入 (含半製品)	1.9	148.3	1.6	▲ 14.8	2.0	25.0

・世界経済 — 底堅い成長持続予想されるも、下振れリスクも

- (1) 本調査対象 22 カ国・1 地域のアンケート回答による単純平均でみると、2007 年の世界経済は夏以降の金融市場の混乱や原油価格の急騰などにも関わらず、2006 年の実質 5.6%の伸びを僅かながら上回る 5.7%の成長を遂げた見込みで、2008 年にも若干減速するものの 5.5%と引続き 5%台の高い成長を持続する見通しとなった。但し、2008 年の年明け後には、米国でサブプライムローン問題等の影響が住宅投資や個人消費等実体経済面にも現れ始め、また、世界連鎖株安が広がるなど不透明感が増して、世界景気の先行きに下振れリスクが生じてきている。
- (2) アンケート回答を基に 2007 年の世界経済動向を概観すると、金融市場動揺の発端となった米国経済も秋頃までの堅調に支えられて、通年で 2%台の成長率を確保した。米国以外では、先進地域でも EU27 が潜在成長力を上回る堅調な伸びを記録し、また、新興経済諸国では、中国はじめ BRICs 諸国、ASEAN、中東産油国などの多くの国の成長率がほぼ 2006 年並みとなり、そのなかには前年実績を上回る例も散見された。
- (3) 2008 年の見通しをみると、一部を例外にほとんどの国で成長の減速が予想されているものの、小幅な減速に止まると想定されている場合が多い。欧米先進地域でも、米国景気は底割れを回避し、ほぼ前年並みの 2.0%の成長率を維持し、EU27 の成長率も 0.5 ポイント減速するが、2.4%と潜在成長率を保つと見込まれている。新興経済国では、中国、インド、ロシア、ブラジルおよび ASEAN の多くの国で前年の成長率を下回るものの、各国とも 4~10%台の高成長を持続すると予想されている。中東産油国では、UAE がこれまでの急成長からややテンポを緩めるが、イラン、サウジアラビア等ではむしろ成長加速する見通しである。こうして、2008 年も順調であれば世界経済は底堅い成長を辿ると予想されるが、欧米先進国経済を中心に不透明感が強まりつつある最近の情勢から、新興諸国経済も含めた世界経済全体の先行きには下振れリスクが生じつつあることは否めない。

(第 5 図) 主要国の実質経済成長率見通し (単位 : %)



(第1表) 主要国の実質経済成長率見通し

(単位: %)

国・地域		2006年	2007年見込み	2008年見通し	
アジア	中国	11.1	11.4	10.8	
	韓国	5.0	4.9	5.0	
	台湾	4.7	5.5	4.5	
	ASEAN	タイ	5.2	4.5	4.0～5.0
		マレーシア	5.9	6.0	6.0～6.5
		シンガポール	7.9	7.9	6.6
		インドネシア	5.5	6.3	6.8
		フィリピン	5.4	6.6	6.3～7.0
	ベトナム	8.2	8.5	8.5	
インド	9.4	8.5	7.5		
中近東	イラン	4.9	4.8	5.1	
	サウジアラビア	4.6	3.7	5.8	
	U.A.E.	9.4	9.0	8.0	
欧州	EU27		3.0	2.9	2.4
		ドイツ	2.9	2.6	1.9
		チェコ	6.4	5.8	5.0
	ノルウエー		2.8	3.5	3.8
	トルコ		6.1	5.0	5.5
	ロシア		6.7	7.3	6.4
	ウクライナ		7.0	8.0	6.5
北米	米国	2.9	2.2	2.0	
	カナダ	2.8	2.6	2.4	
中南米	メキシコ	4.8	3.1	3.4	
	ブラジル	3.7	5.2	4.5	
豪州		2.5	4.3	4.3	
(22カ国・1地域平均)		5.6	5.7	5.5	
参考	日本	2.4	1.9	1.5	
	世界	5.0	4.9	4.1	

注: 日本および世界は IMF 予測 (08年1月発表) による。

(第2表) 2007年と2008年の主要国別経済情勢

	2007年見込み	2008年見通し
中国	引続き高水準を維持している固定資産投資(1~11月累計で前年同期比26.8%増)、株価高騰の背景にある過剰流動性、大幅な貿易黒字などの対策として、相次いで引き締め策(法定基準金利引上げ、預金準備率引上げ、貸出金総量規制、人民元の高め誘導、輸出増値税還付率引下げ・撤廃等)が打ち出された。最大輸出先の米国の景気減退も加わり、年末にかけて減速感がでたものの、主要経済指標は通年で当初予想を上回る伸びを続けた。	さらなる景気引き締め策が打ち出されることが間違いないが、北京オリンピック開催年に当り、また、投資過熱やインフレの問題は部分的であるとして、安定成長、微調整等をキーワードとする漸進的な舵取りを基本とする中国政府の立場から、景気を極端に冷やすような経済政策はとられないものとみられる。外資、中国企業とも設備投資意欲は依然旺盛であり、08年も前年並みの高い経済成長が続くと予想される。
韓国	06年並みの経済成長が続いた。上期には輸出と設備投資に支えられて4.5%程度、下期には消費の回復が牽引して5.0%程度の成長となり、通年では4.9%程度と見込まれる。	企業出身者が大統領選を制したことで景気の先行きに期待感が持たれている。サブプライムローンに端を発した世界経済鈍化が現実となれば、内需に期待が移り、新大統領公約の大規模開発事業の効果が注目される。08年実質経済成長率は、上期5.2%から下期4.8%へと若干減速するが、通年では5.0%をキープする見込み。

		2007 年見込み	2008 年見通し
台 湾		上期は、輸出が弱含んだが、民間消費の回復、民間投資の高い伸び持続などで、4.62%の実質経済成長を達成した。下期には、米国サブプライム問題の波及があったものの、機械関連の輸出増、都市、農村の地域開発に伴う民間投資の増加等がみられ、通年の経済成長は5.46%程度となった見込みである。	世界経済の成長鈍化から、輸出の伸び悩みが予想され、経済成長率は4.53%程度に減速するものとみられる。
A S E A N	タ イ	政情の不確実性から消費者、投資家の信頼感が低下し、民需低迷が景気を下押ししたが、外需は好調で、純輸出の増加が景気を牽引し、また、公共支出も下支えとなった。07 年の経済成長率は、07 年秋頃の予測値上限の 4.5%を上回る見込み。	高水準な稼働率にある工業部門で設備投資の伸びが期待できるほか、投資奨励許可を既に受けている投資案件が動き出し、また、政府支出の加速も続くことから、内需の拡大が期待できる。
	マレーシア	年初はインフ、金利上昇懸念から自動車、住宅販売の低調がみられたが、第 9 次 5 カ年計画等の公共投資に刺激され、民間の消費、投資も活発化し、予測通りの 6%の経済成長が達成された見込み。	公共投資の伸びは鈍化が避けられないが、民間消費、投資による景気の牽引が続き、07 年を上回る成長が予想される。
	インドネシア	個人消費と輸出の拡大により政府目標を上回る経済成長が達成された。外国投資も大幅に伸び、産業活動も全般に上向き、進出企業を代表する四輪、二輪業界は史上最高の販売記録に迫り、関連する部品、原材料、運輸業などにも好況が波及。	設備投資の拡大、雇用増に伴う消費の伸びが期待される。輸出は景気減速の先進国向けに鈍化するも、新興諸国向けが下支え。サブプライム問題を背景に 07 年末から金融機関の貸出し姿勢が厳格化したことはマイナス要因として懸念される。
	ベトナム	WTO 加盟に伴う外資参入の拡大、輸入関税の引下げ等で、経済活動が全体に活発化した。輸出も、各業種にわたり増加したが、原油のみ生産の低下を受けて減少した。	堅調な外国直接投資、旺盛な内需により 8.5%以上の高成長が見込まれるが、07 年から問題化している物価上昇が懸念材料の一つ。
インド		ルピーの対ドルレート大幅上昇による輸出の伸び悩み、原油高騰による輸入増等で、貿易赤字が急速に拡大しているが、非居住インド人からの送金や IT ソフトウェア輸出の堅調から経常収支赤字は 06 年度並みに止まる見込み。	欧米諸国の景気減速、原油高の影響を受けて成長鈍化する見込み。旺盛な外国投資も韓国、インドネシア等の一部振り向けられる可能性もある。国内のインフ問題も成長の長期的な障害となる恐れがある。
U A E		原油価格高止まりを背景に、湾岸の投資資金がドバイを中心に流入、06 年に続き不動産開発、インフラ関連プロジェクト等が活況。一方でインフが進行し、折からのドル安を受けて通貨の切り上げ、対ドルレートの解除を検討する動きもでてい	集中豪雨的な開発ラッシュを経たドバイでは不動産の供給過剰感が出て、資産バブルの陰りが窺われるが、アブダビでは、今後、都市開発やインフラ関連プロジェクトが期待される。
E U 27		ユーロ圏経済は輸出と設備投資の好調持続に加えて、個人消費にも回復傾向が窺われ、潜在成長力を上回る実質 2.7%程度の成長が見込まれる。ユーロ圏外では中欧諸国で高い経済成長が持続した。	08 年にもユーロ圏で 2.3%程度の GDP 成長率が予測されているが、米国でのサブプライム破綻による欧州金融への影響の度合いによっては、さらなる鈍化も予想される。
ロシア		上半期には第 1 四半期 7.9%、第 2 四半期 7.8%の経済成長を遂げた。旺盛な投資活動、エネルギー価格の歴史的な高水準を背景に、通年で 7.3%程度の成長は可能。	エネルギー価格の落ち着き等から 08 年以降経済成長の減速が見込まれるが、次第に経済の脱石油・ガス依存が進むなかで 2012 年頃に向けて年率 5%以上の成長は維持される見込み。
米 国		第 3 四半期までは住宅部門を除き順調な景気拡大が続いたが、サブプライム問題を発端とする金融・資本市場の混乱やエネルギー価格高騰により先行き不透明感が増し、第 4 四半期には大幅に成長鈍化した。通年では 2.2%の緩やかな成長を確保。	原油高、ドル安等のインフレ圧力、住宅不振による個人消費への波及、サブプライム問題の深刻化による金融市場の動揺など先行き不透明感が増している。消費、投資を中心に成長鈍化が予想されるが、堅調な海外景気等が支えとなって景気の底割れは回避できる。
ブラジル		個人消費、設備投資等内需中心の景気拡大が加速し、前年の伸びを大きく上回る 5%超の経済成長が見込まれている。外国直接投資の増加が目立つ。	減速するも 4.5%程度の堅調な伸びが予想される。米国景気後退に伴う世界経済の成長鈍化による影響がブラジルからの外資逃避、通貨レアルの下落、インフ等を招くことが懸念材料。
豪 州		旱魃等の問題にも関わらず、資源価格の上昇等を通じて世界の経済環境は豪州経済の拡大に追い風となった。	設備投資の好調持続、輸出の拡大に加えて、家計部門にも期待が持てる。実質 4.25%程度の堅調な景気拡大が予想される。

・世界鉄鋼需給

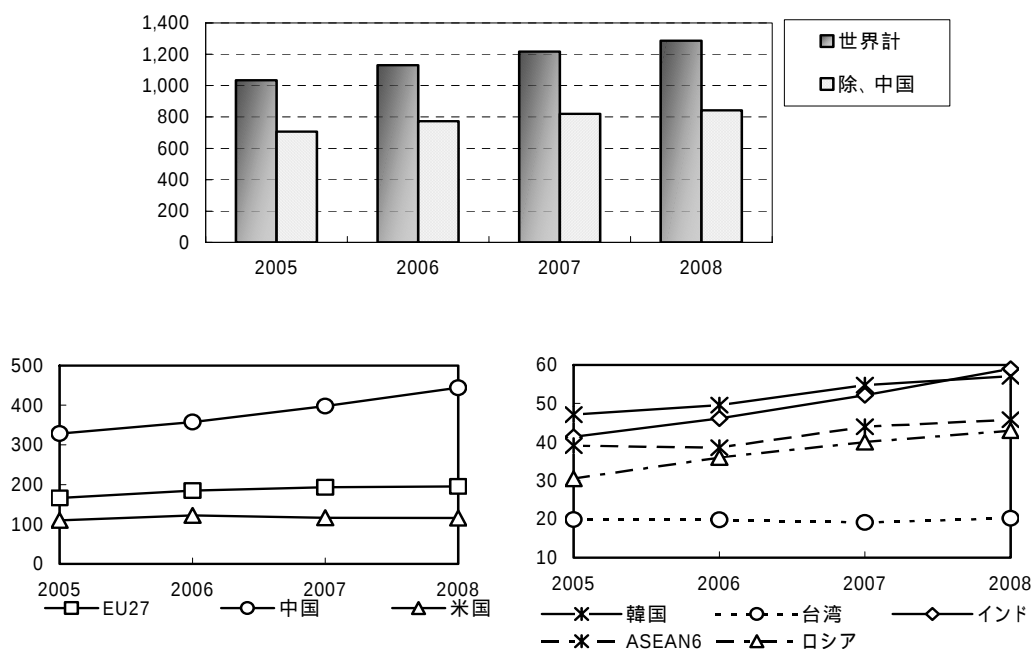
A．鉄鋼需要

1．2007 年の鉄鋼需要は中印等の拡大から増加、2008 年も中国を主体に増加の見通し

- (1) 2007 年の鉄鋼需要量(鋼材見掛消費ベース、以下同)は、調査対象の 22 カ国・1 地域で前年比 8.2%、7,970 万トン増の 10 億 5,410 万トンと中国や新興経済・資源国を中心に需要が拡大したため高い伸びとなった。なお、世界計では前年比 7.7%、8,680 万トン増の 12 億 1,730 万トンの見込みである。国・地域別にみると、アジアでは 10%超の経済成長率を達成した中国で同 11.4%、4,070 万トン増と大幅増となり、インドも同 17.5%、810 万トン増と拡大傾向を辿っている。また、韓国は同 10.5%、520 万トン増と増勢を強め、ASEAN 諸国も需要旺盛ななかで同 14.3%、550 万トン増と拡大局面を辿っている。そして、EU27 カ国では鉄鋼需要は年央以降増勢に鈍化が窺がわれつつも同 4.4%、810 万トン増となった。中近東 3 カ国ではインフラ投資等鉄需が順調に拡大したため同 9.8%、280 万トン増となり、中南米でもブラジルやメキシコはいずれも 300 万トン超の増加となっている。一方、北米では米国が住宅関連を中心に需要が低迷したため同 4.9%、620 万トン減となり、隣国のカナダも米国のサブプライム・ローン問題が影響して同 3.8%、70 万トン減と小幅ながらもマイナスを余儀なくされている。
- (2) 2008 年の鉄鋼需要は調査対象国(同上)全体で前年比 6.1%、6,420 万トン増の 11 億 1,830 万トンと 2007 年と比較すると僅かに鈍化するも拡大ペースは衰えないと予想される。なお、世界計では、同 5.7%、6,920 万トン増の 12 億 8,650 万トンとなる見通しである。国・地域別にみると、アジアでは中国が同 11.5%、4,570 万トン増と依然最大の増加国となる見通しである。他アジアではインドが同 8.9%、480 万トン増、韓国が同 4.2%、230 万トン増、ASEAN 諸国が同 4.2%、190 万トン増とそれぞれ増加する見込みである。一方、EU27 カ国は同 1.0%、190 万トンと小幅ながらも前年を上回り、中近東 3 カ国も同 1.8%、60 万トン増となる見通しである。これに対して、北米ではサブプライム問題の深刻化もあって米国は同 0.6%、70 万トン減、カナダも同 2.2%、40 万トン減とどちらも 2 年連続のマイナスとなろう。その結果、世界全体から中国を除いた鋼材見掛消費量は同 2.9%、2,350 万トン増の 8 億 4,270 万トンとなる見通しである。

(第 6 図) 世界の鋼材見掛消費

(単位：100万トン)



(第3表) 調査対象国・世界の鋼材見掛消費見通し

(単位：100 万トン)

		鋼材見掛消費			伸び率(%)	
		2006 年 (実績)	2007 年 (見込み)	2008 年 (見通し)	2007/2006	2008/2007
中 国	中 国	357.4	398.1	443.8	11.4	11.5
	韓 国	49.6	54.8	57.1	10.5	4.2
	台 湾	19.8	19.1	20.2	▲3.4	5.5
	タ イ	12.9	12.6	13.2	▲2.2	4.9
	マ レ ー シ ア	6.8	7.2	7.5	6.2	4.2
	シン ガ ポ ー ル	2.4	3.5	3.2	47.3	▲8.6
	インドネシア	6.1	7.9	7.8	29.0	▲1.0
	フィリピン	3.1	3.3	3.6	4.4	8.8
	ベ ト ナ ム	7.2	9.5	10.5	32.2	10.9
	A S E A N 6 計	38.5	44.0	45.8	14.3	4.2
イ ン ド	イ ン ド	46.1	54.2	59.0	17.5	8.9
	ア ジ ア (1 0) 計	511.5	570.2	625.9	11.5	9.8
	イ ラ ン	14.6	15.4	15.4	5.2	0.0
	サ ウ ジ ア ラ ビ ア	7.3	8.0	8.5	9.5	5.6
U . A . E	U . A . E	6.6	7.9	8.0	20.3	1.3
	中 近 東 (3) 計	28.5	31.3	31.9	9.8	1.8
E U 2 7 カ 国	ド イ ツ	38.4	37.5	38.0	▲2.2	1.3
	チ ェ コ	5.9	6.3	6.5	7.1	3.2
	E U 2 7 カ 国	184.9	193.0	194.9	4.4	1.0
	ノ ル ウ ェ ー	1.5	1.2	1.3	▲17.2	8.3
	ト ル コ	21.9	25.8	26.9	18.0	4.2
	ロ シ ア	36.0	40.0	43.0	11.1	7.4
	ウ ク ラ イ ナ	7.1	8.6	9.0	20.6	4.8
	欧州(4+1 地域)計	251.3	268.6	275.1	6.9	2.4
	米 国	122.3	116.1	115.4	▲5.1	▲0.6
	カ ナ ダ	17.3	16.7	16.3	▲3.8	▲2.2
北 米 (2) 計	北 米 (2) 計	139.6	132.8	131.7	▲4.9	▲0.8
	メ キ シ コ	18.0	21.1	21.8	17.2	3.6
	ブ ラ ジ ル	18.5	22.1	24.0	19.2	8.6
	中 南 米 (2) 計	36.5	43.2	45.8	18.2	6.2
豪 州	豪 州	6.9	8.0	7.8	15.9	▲2.5
	対象 22 カ国・1 地域計	974.4	1,054.1	1,118.3	8.2	6.1

世界計	1,130.5	1,217.3	1,286.5	7.7	5.7
(除く中国計)	773.1	819.2	842.7	6.0	2.9

注：増減率は原数値による。

(第4表) 主要国別鉄鋼需要の概要

		2007 年見込み	2008 年見通し
中 国		家電関連は頭打ちも自動車や船舶等は好調だった。特に、自動車は 2006 年超の大幅増産となった。固定資産投資等から窺われるように建材需要は引き続き好調な見込み。	旺盛な鋼材需要を背景に増産意欲は強い。貿易摩擦問題への懸念から輸出抑制策の強化は避けられず、内需にドライブする見込みである。鋼材需要は前年を 11～12% 程度上回る見通しである。
韓 国		鋼材需要を牽引したのは造船で、重電/産機も中国や中近東等外需が堅調だった。建設は住宅建築が鈍化も土木が好調を呈した。これら活発な需要を反映して鉄鋼需要は前年比増加。	製造業は造船と自動車の増加が見込まれる。建設は新都市開発に基づくプロジェクトが複数着工されるため拡大基調を辿ろう。このため、鉄鋼需要は引き続き前年比増加する見通しである。
台 湾		国内大型プロジェクト案件低迷、価格高騰により建材関係の需要が伸び悩んだこと等から全体として鋼材見掛消費は前年比若干減。	LCD 工場建設など一部案件が動き出すことが予想され、鋼材需要は前年に比べて若干回復する見通しである。
A S E A N	タイ	暫定政権の下でプロジェクトが延期されたこともあって鉄鋼需要は低迷する見込み。	景気は政局安定化を背景に好転しよう。鉄鋼需要は低水準ながらも漸くプラスに転ずる見込みである。但し、本格回復するには少し時間を要する見通しである。
	ベトナム	2007 年 1 月の WTO 加盟もあって海外直接投資が大幅に増加、建設や造船などを中心に鉄鋼需要は前年比 2 桁増。	港湾や道路等のプロジェクトや、都市圏で居住用・非居住用ビル建設のラッシュもあって鉄鋼需要は引き続き増加。
	インドネシア	景気好調を背景にエネルギーや建設関連等軒並み好調だったことから鉄鋼需要は前年比大幅増の見込み。	原油価格次第では自動車等は減速する可能性がある。中国を主体とする輸入減少から需給はややタイト化しよう。
	マレーシア	鉄鋼需要は 9MP(第 9 次マレーシア計画)実施により建設が活況を呈していることもあって前年比増加。	米景気減速の影響も懸念されるが、鉄鋼需要は 9MP 継続実施により建設の好調に支えられて引き続きプラスとなる。
イ ン ド		鉄鋼需要部門は政府主導のインフラ/エネルギー関連投資が活発で、製造業も自動車を中心にして総じて好調だった。鋼材需要は全体として旺盛で、前年比大幅増の見込み。	現時点で経済成長を阻害するマイナス要因は見当たらず、2008 年も鉄鋼需要は引き続き増大する見通しである。
E U		鋼材需要は建設や自動車などが底堅く推移して前年比増加となった。中国材を中心に輸入が急増、生産調整が一部実施されたため、粗鋼生産は小幅な伸びに止まろう。	鋼材輸入は AD 提訴から中国製品を中心に減少し、生産は僅少なながらも前年比増加となろう。鋼材需要は 2007 年の伸びを下回るも引き続き増加する見通しである。
ロシア		鉄鋼需要は、景気が改善したため前年比増加した。品種別には、石油・ガス掘削活動の活発化から鋼管需要が年間を通じて好調で、鉄鋼需要は前年比増加する見込み。	引き続きエネルギー関連の好調から鉄鋼需要は前年比増加する見通しである。他には政府主導による高速鉄道敷設推進、国内発電能力向上のため発電所増設等のプラス材料が挙げられよう。
米 国		鉄鋼需要は住宅建設や自動車の低迷を軍需と設備投資で補うかたちとなった。流通在庫は低水準にあるものの、在庫適正化に向けた買い増し需要が見込めず、鉄鋼需要は前年比減となろう。	住宅投資や自動車は年後半まで回復する可能性は小さく、鋼材需要は前年比若干減となる見通し。但し、流通在庫適正化に向けた在庫積み増しの動きが予想される。
ブラジル		鉄鋼需要は生産台数の記録を毎月塗り替えた自動車を始めとしてエネルギーや産業機械、建設等々広範な分野で急増して前年比 2 桁の大幅増加となる見込み。	引き続き鉄鋼需要は順調に推移。特に、自動車は昨年に続いてフル生産が見込まれるなど、鉄鋼需要は高水準を維持する見通しである。

2. 鋼材在庫動向—2008 年は各国で在庫適正化が進展する見込み

- (1) アンケートで得られた主要国の流通およびユーザー段階の在庫動向を整理すると(第5表)、2007 年末現在の在庫水準は「過剰」が3、「適正」が20、「やや過少」が13と、在庫が適正とみるものが多かった。地域別には、「過剰」とする回答はシンガポールとフィリピン、ドイツの3となった。これに対して、「適正」は中国を始め北南米や欧州など幅広い国で見られるが、2008 年を通して在庫が減少するとの回答が目立っている。一方、「やや過少」はアジア諸国に散見され、これらのうち韓国やタイは2008 年下半期にかけて増加に振れるとの見方がされている。他方、米国は流通とユーザー段階で順に「適正」、「やや過少」となっており、流通在庫は2008 年下半期に増加に転じるとされている。
- (2) 主要国別見通しは以下の通りとなっている。
- 中国では流通・ユーザー在庫はともに「適正」であるが、自動車用鋼板や方向性電磁鋼板等の高級品はタイト感が強く、2008 年もほぼ同様の情勢が続くそうである。流通在庫・ユーザー在庫は2007 年末時点で増加局面にあるものの、2008 年上半期にかけてどちらも減少する見込みである。
 - 韓国では流通・ユーザー在庫はいずれも「やや過少」で、2007 年末時点で順に「減少」、「横這い」であるが、2008 年下半期にかけてどちらも増加する見込みである。中国からの輸入減少や造船向け需要の好調から、2008 年も熱延鋼板や厚板は需給タイトな情勢が続くそうである。
 - 台湾では流通・ユーザー在庫はどちらも「やや過少」、2007 年末時点が「横這い」で、2008 年も当面大きい変化はないと予想される。このなかで、2008 年にかけて流通・ユーザー在庫はいずれもステンレス鋼が過剰で、熱延鋼板や厚板が不足する見通しとなっている。
 - インドでは、流通・ユーザー在庫は「やや過少」で、2007 年末時点も「減少」しており、2008 年もほぼ同様の傾向を辿りそうである。在庫が過剰とされる製品は僅少で、需要の好調を反映しつつ幅広い製品で在庫が低減しており、2008 年は需給タイトな情勢が続く見込みである。
 - ASEANでは、国によって「やや過剰」、「適正」、「やや過少」に流通・ユーザー在庫がそれぞれに分散していて傾向性は必ずしも明確ではない。需要規模の最も大きいタイでは、流通・ユーザー在庫は順に「適正」、「やや過少」で、2007 年時点で「横這い」となっているが、2008 年下半期にかけてどちらも増加する見込みである。
 - ドイツでは、流通在庫は「やや過剰」、ユーザー在庫は「適正」で、2007 年末はそれぞれ「減少」、「横這い」となっており、2008 年はどちらも基調に特に変化ないとの見方がされている。なお、流通在庫はGIが在庫過剰であるが、厚板は不足する見通しとなっている。
 - 米国では、流通在庫は「やや過少」、ユーザー在庫は「適正」で、2007 年末時点はいずれも横這い推移であるが、2008 年は流通在庫が上半期にかけて増加する見込みとなっている。厚板は風力発電向け需要が好調なこともあって流通在庫が不足する見通しである。
 - ブラジルでは、流通在庫は「適正」、ユーザー在庫は「やや過少」で、2007 年末時点でどちらも「減少」しているが、2008 年は「横這い」が見込まれている。在庫は流通・ユーザー段階で差はあるが、概して厚板や熱延コイルの製品在庫が多く、表面処理鋼板の在庫が減少する見通しである。

(第5表) 主要各国の鋼材在庫動向

2007年末 在庫水準		在庫変化			
		2007年末 現在	2008年		
			上半期	年央	下半期
過剰	シンガポール(流通)	=		▼	
	フィリピン(流通)			▼	
	ドイツ(流通)	▼	=		
適正	中国(流通)		▼		
	中国(ユーザー)		▼		
	タイ(流通)	=			
	マレーシア(ユーザー)	=			
	シンガポール(ユーザー)	=		▼	
	フィリピン(ユーザー)			▼	
	サウジアラビア(流通)		▼		
	サウジアラビア(ユーザー)		▼		
	ドイツ(ユーザー)	=			
	トルコ(流通)	=			
	トルコ(ユーザー)	=			
	ロシア(流通)	▼			▼
	米国(ユーザー)	=			
	カナダ(流通)	=			
	カナダ(ユーザー)	=			
	メキシコ(流通)	=	▼		
	メキシコ(ユーザー)	=			
	ブラジル(流通)	▼			
	豪州(流通)				▼
	豪州(ユーザー)				▼
やや過少	韓国(流通)	▼			
	韓国(ユーザー)	=			
	台湾(流通)	=			
	台湾(ユーザー)	=			
	タイ(ユーザー)	=			
	マレーシア(流通)	▼			
	インドネシア(流通)	▼			
	インドネシア(ユーザー)	▼			
	インド(流通)	▼			
	インド(ユーザー)	▼			
	ロシア(ユーザー)	▼			▼
	米国(流通)	=			
	ブラジル(ユーザー)	▼			

注：記号は在庫変化で、 は増加、 = 横這い、 ▼ 減少。

3. 主要需要産業の2008年活動見通し - 非住宅、石油ガス、造船は好調持続

- (1) アンケート回答により主要国の鉄鋼需要産業の活動状況(第6表)をみると、2007年は新興経済・資源国を中心に好調に推移する見込みである。特に、中印が建設並びに製造業等主要セクターすべての活動が高水準である。他には、ASEAN諸国や産油国でも主要部門の好調が目立っている。一方、米国は建設や自動車を主体に総じて低迷したほか、カナダも住宅建設、石油ガス開発が停滞している。2008年は引き続き中印

が好調を持続すると予想されるほか、ASEAN や中南米諸国等も主要需要部門が概ねのところで上昇する見込みである。一方、米国は石油ガス開発を除いて住宅建設や製造業など軒並み精彩を欠く情勢が続くそうである。

(2) 主要部門別見通しは以下の通りである。

- 建設のうち、住宅・非住宅の 2007 年の活動は中国、インド、フィリピン、メキシコ等が高水準で、これらの国を中心に 2008 年も高水準となる見込みである。一方、米国は住宅の停滞が続いており、2008 年も住宅・非住宅の低迷が続く見通しである。土木の 2007 年は中国やインド、一部を除いた ASEAN、ロシア、サウジアラビア、メキシコなどが高水準で、2008 年もこれらの国を主体にして好調が続く見込みである。
- 石油・ガス開発は、2007 年もエネルギー価格の高騰を背景に産油国は総じて好調だった。2008 年入り後も原油価格は更に高騰を続けており、前年と同様に高水準の活動が続くと見込まれる。但し、カナダは停滞する見通しである。
- 自動車・同部品は、2007 年も国によって斑模様ながらも新興経済国を中心に盛り上がりを見せた。特に、中印やタイ、中南米は高水準で推移し、これらの国々は 2008 年も好調に推移すると見込まれる。また、ロシアやトルコなども 2008 年は高水準で推移しよう。一方、米国は原油価格上昇の余波もあって低迷する見込みである。
- 造船は、2007 年も韓国、中国、台湾の主要 3 カ国がいずれも好調だった。韓国は豊富な受注残を有しており、2008 年も高水準となる見込みで、中国も韓国の後追いながらも世界シェアを着実に伸ばしているためほぼ同様の傾向で推移しよう。
- 機械は、2007 年も中印を始めとして中南米でも好調で、2008 年も高水準の活動水準が見込まれよう。また、他には韓国やタイ、マレーシアも 2008 年は活動水準の上昇が見込まれるが、米国は景気低迷の余波が好調だった設備投資にも及んで停滞する見通しである。
- 家電は、2007 年も中印、台湾やブラジルで高水準で、これらの国々は 2008 年も好調に推移する見通しである。一方、韓国は現地生産化の進展から、米国は住宅建設等の低迷から、それぞれマイナスとなる見込みである。

(第 6 表) 主要鉄鋼需要産業の 2007 年活動水準と 2008 年活動見通し

	住 宅 建 築	非住宅 建 築	土 木	石油ガス 開 発	自動車 ・ 部品	造 船	機 械	家 電
中 国	高	高	高	高	高	高	高	高
韓 国	普	低 =	普		普	高	普	普 ▼
台 湾	普 =	普	普 =		低	高 =	高 =	高
タ イ	高 =	普	普 =	高	高		普	普
マレーシア	普	普	高	高	低 =	高	普	低 =
シンガポール	高 =	高 =	高 =	高 =	普 =	高 =		普 =
インドネシア	普 ▼	普 =	普	普 =	普	普	高 =	普 =
フィリピン	高	高	高	低	普	高		普 =
インド	高	高	高	高	高	高	高	高
サウジアラビア	普	高	普	高				
ド イ ツ	普 =	普 =	普 ▼		普 =	高 =	高 =	普 =
トルコ	普 =	高 =	普 =	普 =	高	高	普 =	普 =
ロ シ ア	普 =	高	高	高	低	低 =	普 =	普 =
米 国	低 ▼	高 ▼	普 ▼	高 =	普 ▼	普 =	普 ▼	普 ▼
カ ナ ダ	普 ▼	普 =	普 =	普 ▼	普 =		普	普 =
メキシコ	高	高	高	高	高		高	高 =
ブラジル	普	普	普	高	高	低	高	高
豪 州	普 ▼	高 =	高	高	低 ▼	低 =	普 =	普 =

注：2007 年の活動水準（高：高水準、普：普通、低：低水準）

2008 年の活動予想（：上昇あるいはやや上昇、=：横這い、▼：下降あるいはやや下降）

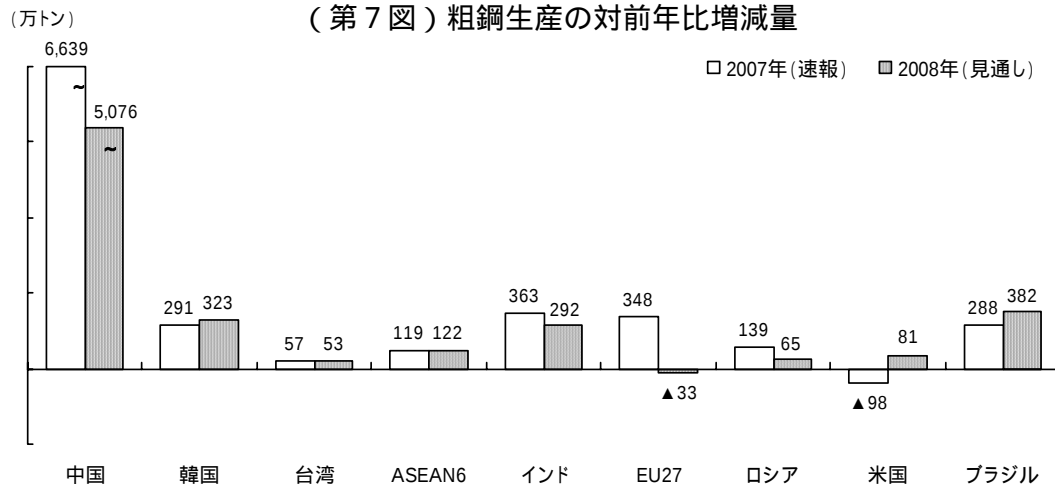
B．鉄鋼生産 — 2008 年は中国やその他の新興経済国を中心に引続き増加を辿る見通し

- (1) 2007 年の粗鋼生産（速報値）は、調査対象 22 カ国 + 1 地域（EU27 カ国）合計で前年比 8.2%・8,860 万トン増の 11 億 7,200 万トン、世界全体で同 7.5%・9,330 万トン増の 13 億 4,350 万トンと過去最高を更新した（第 7 表）。特に、生産量トップの中国は、建設・製造業向けとともに需要が好調を維持する中、引続き生産能力は拡大を辿っており、同 15.7%・6,640 万トン増の 4 億 8,920 万トンと、世界の粗鋼増産量の約 7 割を占めた。また、世界的に鉄鋼需要が好調を持続する中において、韓国、インド、ブラジルなどその他の主要製鉄国でも生産量が増加するなど、多くの国で粗鋼生産は前年水準を上回った。一方、米国では内需の鈍化等から粗鋼生産が減少したほか、通年では前年水準を上回った EU でも、輸入の急増から下期には在庫調整が行われた。
- (2) 2008 年の調査対象 22 カ国・1 地域合計の粗鋼生産は前年比 5.7%・6,730 万トン増の 12 億 3,930 万トン、世界全体で同 5.2%・7,000 万トン増の 14 億 1,350 万トンと、前年と比べて伸びは鈍化するものの、新興国の需要増や生産能力増強を受けて引続き増加を辿る見通しである。内訳をみると、中国は、緩やかながら旧式生産設備の淘汰が進展しつつあるものの、旺盛な内需のもとで各メーカーとも依然として増産意欲が強く、生産は前年比約 10%の増加が予想されている。その他、東南～南アジア、中東、南米などの新興市場では、引続き鉄鋼需要が堅調に推移すると見られる中で、鉄鋼生産設備への投資も各地で進展しており、多くの国で増産が予想されている。一方、サブプライム・ローン問題など景気の先行き不透明感が広がる中、米国では需要の低迷が続き、EU でも増勢が鈍化するとみられ、欧米地域の通年の粗鋼生産は前年並みに止まる見通しである。

（第 7 表）調査対象国・世界の粗鋼生産見通し （単位：100 万トン）

	2006年 実績	2007年 速報	2008年 見通し	増減率（％）	
				2007/2006	2008/2007
中国	422.9	489.2	540.0	15.7	10.4
東南アジア(10)	135.4	143.7	151.6	6.1	5.5
韓国	48.5	51.4	54.6	6.0	6.3
台湾	20.1	20.7	21.2	2.8	2.5
タイ	5.2	5.5	5.8	5.0	5.1
マレーシア	5.8	6.1	6.7	4.9	9.7
シンガポール	0.6	0.6	0.6	5.4	0.0
インドネシア	3.8	3.9	3.9	4.8	0.0
フィリピン	0.6	0.6	0.7	5.7	25.4
ベトナム	1.4	1.8	2.0	28.6	11.1
インド	49.5	53.1	56.0	7.3	5.5
中近東(3)	13.9	14.8	15.3	6.7	3.4
イラン	9.8	10.1	10.2	2.7	1.9
欧州(4+1 地域)	342.6	351.8	354.9	2.7	0.9
EU27	206.8	210.3	210.0	1.7	▲0.2
トルコ	23.3	25.8	27.4	10.5	6.2
ロシア	70.8	72.2	72.9	2.0	0.9
ウクライナ	40.9	42.8	44.0	4.7	2.7
北米(2)	113.7	113.6	114.0	▲0.1	0.4
米国	98.2	97.2	98.0	▲1.0	0.8
中南米(2)	47.2	51.0	55.6	7.9	9.1
メキシコ	16.3	17.2	18.0	5.3	4.8
ブラジル	30.9	33.8	37.6	9.3	11.3
豪州	7.9	7.9	7.9	0.2	0.0
対象22カ国・1地域計	1,083.4	1,172.0	1,239.3	8.2	5.7
世界計	1,250.2	1,343.5	1,413.5	7.5	5.2
（除く中国）	827.3	854.2	873.5	3.3	2.3

注：増減率は原数による比率。07 年の値は一部推計値。



(第8表) 主要国別鉄鋼生産動向

	2007 年速報値 (一部推計値)	2008 年見通し
中 国	建設・製造業ともに需要好調。旧式生産設備淘汰の進展は窺われるものの、設備新增設の動きは引続き旺盛で、粗鋼生産は前年比 15.7%・6,640 万トン増の 4 億 8,920 万トンと世界の 07 年の粗鋼増産量の約 7 割を占めた。	旧式生産設備の淘汰が進展しつつあるものの、08 年には約 5 千万トンの製鋼能力増強が予定される。各鉄鋼メーカーともに増産意欲は強く、2008 年の粗鋼生産は 07 年比 10%増の 5 億 4,000 万トンに達する見通しである。
韓 国	POSCO 光陽 3 号高炉で巻替え工事が行われたものの、POSCO の FINEX 稼働、現代製鉄唐津 A 地区熱延工場の電炉再稼働等により前年比 6%の増加。	08 年は POSCO の高炉巻替え工事に伴う減産の予定は無く、現代製鉄、韓国鉄鋼、大韓製鋼での電炉稼働等もあって引続き増加を辿る見通し。
台 湾	豊興鋼鐵等で製鋼能力が増強されたものの、内需はやや伸び悩んでおり、通年では 2.8%増。	内需が若干回復するとみられており、粗鋼生産も引続き緩やかな増加を辿ると予想される。
ASEAN 諸国	ASEAN5 カ国は 5%前後の増加となった一方、内需が大幅に拡大しているベトナムでは、電炉工場の稼働が相次いでおり大幅な増産となった。	域内の内需は全般的に底堅く、粗鋼生産はタイ・マレーシアで堅調な増加、フィリピン・ベトナムは 2 桁の増加が予想される。
インド	エネルギー・インフラ・自動車を中心に鋼材需要は継続的に伸張、能力増強も進んでおり、粗鋼生産は 7.3%の増加。	内需は好調を維持。鉄鋼プロジェクトが多数計画される中で停滞例も少なくないが、鉄鋼生産能力は着実に拡大しており、生産量の増加も継続する見込み。
E U	域内の実需は安定成長を辿り、上期は前年水準を上回る生産が行われたが、中国を始め輸入材が高水準で流入したことから、下期には在庫調整が行われた。通年の粗鋼生産は 1.7%増。	実需は堅調を維持するも、増勢は鈍化すると見込まれるほか、上期中は在庫調整の動きもあって、粗鋼生産は横ばいに止まる見通し。
ロシア	需要が引続き好調を維持する中、国内ミルの設備投資・合理化も進展し、粗鋼生産は堅調に増加。	内需は好調を持続、国内ミルではさらに設備投資・合理化を進める予定。生産は高水準を維持する見通し。
米 国	自動車、住宅需要の落ち込みの大部分を軍需、設備投資需要にて補った形となったが、年後半になり設備投資需要にも翳りが見え始めるなど、内需は停滞しており、粗鋼生産も減少した。	サブプライム・ローン問題等、景気の先行き不透明感等もあって内需は伸び悩むと予想されるが、サービスセンターの在庫積み増しの動きから、粗鋼生産は微増の予想。
ブラジル	内需は拡大基調、06 年の CSN 高炉事故の減産の反動増や、CST の新 3 号高炉の稼働等もあって粗鋼生産は増加。	内需は好調を持続、Acominas の 2 号高炉が 07 年末に稼働するなど能力増強が続いており、粗鋼生産は高い伸びが予想される。

C．鋼材輸出 - 堅調な鋼材需要を背景に高水準ながらも、中国の抑制基調強化から前年を下回る

(1) 2007 年における 22 カ国・1 地域の鋼材輸出货量（半製品を含む）は、合計で 2 億 5,550 万トンと前年比 8.2%、1,940 万トンの増加が見込まれる。うち前半に輸出が激増した中国が同 32.8%、1,650 万トン増の 6,690 万トンと増加分の約 85%を占めている。全世界の鋼材需要は引き続き堅調で、国際市況も原料価格の高騰等を背景に上伸基調にあるなど輸出環境は良好なものの、中国材との競合や内需の好調からくる輸出余力の低下等により、輸出が前年を下回った国もあり、中国を除いた合計では同 1.6%、290 万トン増の 1 億 8,860 万トンと微増に止まった。中国以外の主要国では、中国材との競合から前年に大幅減となったトルコが中東、欧州向けを中心に同 220 万トン増まで回復し、メキシコ、米国がともに増加に転じた。また、ウクライナは 3,060 万トンと前年並みの水準を維持した。他方、内需が好調なブラジルが同 200 万トン超の減少となったほか、EU、ロシアが同 100 万トン超減少した。

(2) 2008 年の鋼材輸出货量（22 カ国・1 地域）は、欧米諸国での通商摩擦化などから抑制基調を強める中国が、前年比 19.3%、1,290 万トン減の 5,400 万トン程度に止まるとみられることから、全体では同 2.5%、650 万トン減の 2 億 4,900 万トンと前年を下回る見通しである。全世界の鋼材需要は底堅く推移するとみられ、中国を除いた合計では同 3.4%、640 万トン増の 1 億 9,500 万トンと堅調に増加するものと想定される。中国以外の主要国では、内需が好調なロシアが同 120 万トン減と引き続き減少する一方、ブラジル、トルコ、ウクライナ、韓国では、良好な輸出環境が続くことに加え、新規設備の稼働等もあり、増加が見込まれている。

(第9表) 主要国の鋼材輸出見通し

(単位: 100 万トン)

輸 出 国		2006 年 実 績	2007 年 見込み	2008 年 見通し	増減率 (%)	
					2007/2006	2008/2007
ア ジ ア	中 国	50.4	66.9	54.0	32.8	▲ 19.3
	韓 国	17.8	18.6	19.7	4.8	5.6
	台 湾	10.5	10.2	10.5	▲ 2.8	2.6
	A S E A N 6	10.2	11.6	11.9	13.4	2.6
	イ ン ド	6.8	7.0	7.2	2.6	2.9
(10) 計		95.7	114.3	103.2	19.5	▲ 9.7
中 東 (3) 計		2.7	2.9	2.9	7.3	1.7
欧 州	E U	33.1	31.8	32.3	▲ 4.0	1.4
	ト ル コ	9.2	11.4	12.8	23.7	12.9
	ロ シ ア	30.1	28.8	27.6	▲ 4.2	▲ 4.0
	ウ ク ラ イ ナ	30.5	30.6	31.9	0.3	4.2
(4+1 地域) 計		103.8	103.5	105.6	▲ 0.2	2.0
北 米	米 国	8.8	10.3	10.3	16.2	0.0
	カ ナ ダ	6.4	6.2	6.2	▲ 3.4	0.0
(2) 計		15.2	16.5	16.5	7.9	0.0
中 南 米	メ キ シ コ	5.0	6.9	7.5	40.1	7.4
	ブ ラ ジ ル	12.5	10.3	12.4	▲ 17.7	20.4
(2) 計		17.5	17.2	19.9	▲ 1.3	15.2
豪 州		1.2	1.1	1.0	▲ 11.4	▲ 4.8
22 カ国・1 地域計		236.1	255.5	249.0	8.2	▲ 2.5
(除く中国)		185.7	188.6	195.0	1.6	3.4

注： 鋼材＝全鉄鋼－銑鉄－フェロアロイ、 増減率は原数による比率

(第10表) 主要国の輸出動向

		2007 年見込み	2008 年見通し
中 国		世界的に堅調な需要と内外価格差の拡大等から年前半にかけて急増、通商問題化の懸念もあり中国政府は、数次に亘り輸出抑制策を打ち出した。年後半にはその効果が顕在化し、漸減傾向を辿ったものの、通年では前年比 1,650 万トン増の 6,690 万トンと高水準。	輸出抑制策の更なる強化や資源コストの上昇等もあり、前年を下回る見通し。中国政府が高級鋼化や高付加価値化を指向していることもあり、従来の輸出品種である低グレード汎用品を中心に減少するものとみられる。
韓 国		自動車用鋼板の生産能力拡大が続く中、東南アジア向けの同鋼板輸出を中心に増加。	国内製造業での生産拠点の海外移転の動き等から、アジア、中東向けを中心に堅調な輸出の増加が見込まれる。
台 湾		ASEAN、欧州、中東向けが伸長したものの、主要な仕向先である中国、米国向けの減少から前年を下回る見込み。	ASEAN 向けが好調を維持することに加え、年後半より米国向けが徐々に回復してくることから増加に転じる見通し。
A S E A N	タイ	内需低迷により各ミルが輸出ドライブをかけたことなどから大幅増となる見込み。	原料価格の高騰や自国通貨(バーツ)高等、採算的には厳しいものの、東南アジア向けを中心に前年を上回るとみられる。
	マレーシア	東南アジア、中東向けは増加したものの、国内建設需要が好調なこともあり、欧米向けを中心に減少し、前年を下回る見込み。	主要輸出品種のビレット、条鋼類に輸出規制の動きがあること等、先行き不透明ではあるものの、前年並みで推移する見通し。
	(6) 計	堅調な域内需要に加え、中東向け中継機能が活発化しており、前年比増加の見込み。	引き続き堅調な域内需要、中東地域での旺盛な需要を背景に前年を上回る見通し。
インド		旺盛な国内需要から輸出余力は低下しており、前年比若干増に止まる見込み。	東南アジア、欧州、米国向けを中心に、前年並みの緩やかな増加を維持する見通し。
E U	ドイツ	東欧向けを中心に高水準で推移する見込み。	東欧、中東向けを中心に堅調に推移するものの、ユーロ高もあり前年を下回る見通し。
	チェコ	建設用鋼材を中心に周辺諸国への積極輸出が継続。	引き続き周辺諸国の安定成長が見込まれるものの、供給能力面の制約もあり、前年並みとなる見通し。
	(27) 計	年後半より需要好調な中東、アジア向けが回復しつつあるものの、通年では、前年割れの見込み。	ユーロ高による輸出への逆風は強まるものの、新興国、産油国の堅調な需要に支えられ、前年比若干増の見通し。
トルコ		北米向けは振るわないものの、中東、欧州向けの好調から前年を上回る見込み。	自国通貨(リラ)高等懸念材料はあるものの、中東、欧州向けを中心に堅調な輸出が続く。
ロシア		内需好調から輸出余力は乏しく前年を下回るものとみられる。	ルーブル高、フレート高から輸出競争力は相対的に低下しており、前年同様、減少基調を辿る見通し。
ウクライナ		欧州、米国、アフリカ向けが減少する一方、中東、トルコ等、近隣諸国向けを中心に増加し、前年並みを維持する見込み。	欧州、中東、ロシア向けの増加から前年を上回る見通し。
米国		ドル安による輸出競争力の向上もあり、近隣諸国向けを中心に前年を上回る見込み。	輸出環境に基調の変化は見られないものの、市況回復によるスポット輸出の減少等もあり、前年並みに止まる見通し。
カナダ		年央からのカナダドル高もあり、米国向けは前年並みを維持するも、中南米向けを中心に減少する見込み。	9 割超を占める NAFTA 向けが安定的に推移することから、前年並みを維持する見通し。
メキシコ		主力の米国向けのほか、欧州、中国向けの伸長から前年を上回る見込み。	米国経済は減速するも半製品主体の輸出は前年レベルを維持する見込みで、全体でも前年を上回る見通し。
ブラジル		需要が旺盛で価格レベルも高い国内向けが優先され、輸出は前年比大幅減の見込み。	内需好調から鋼材は前年並みに止まるものの、ArcelorMittal Tubarao(旧 CST)第三高炉、Acominas の第二高炉の稼働等から半製品輸出が拡大し、前年を上回る見通し。

D．鋼材輸入 - 新興国・地域での増加を見込むも米国の調整から若干増に止まる見通し

(1) 2007 年の 22 カ国・1 地域の鋼材輸入（半製品を含む）は、前年比 5.1%、1,200 万トン増の 2 億 4,520 万トンと見込まれる。各国・地域の堅調な内需に導かれ、着実に増加した面はあるものの、米国、EU 等、激増する中国材の流入から需給が軟化し、通商問題化した国・地域もあった。主要市場別では、前年に中国材が大量流入した米国が同 1,160 万トン減と大幅に減少したほか、価格高騰から半製品輸入が滞った台湾が同 190 万トン、輸入代替が進む中国が同 180 万トン減少した。一方、その他の国・地域では、堅調な内需を背景に EU が同 920 万トン、ASEAN が同 600 万トン、韓国が同 390 万トン、中東とインドが同 240 万トン、トルコが同 180 万トン、ロシアが同 110 万トンと軒並み増加する見込みである。

(2) 2008 年の鋼材輸入（22 カ国・1 地域）は、前年比 1.2%、300 万トン増の 2 億 4,820 万トンと若干増に止まる見通しである。需給調整が長引く米国が同 310 万トン減と引き続き減少するほか、EU が同 110 万トン減と前年を下回るものとみられる。他方、その他の国・地域では、ASEAN が同 340 万トン増、ロシアが同 120 万トン増、トルコが同 100 万トン増と引き続き増加するなど、新興国を中心とした鋼材需要の拡大から緩やかな増加が続く見通しである。

(第 11 表) 主要国の鋼材輸入見通し

(単位: 100 万トン)

輸 入 国		2006 年 実 績	2007 年 見込み	2008 年 見通し	増減率 (%)	
					2007/2006	2008/2007
アジア	中 国	19.0	17.2	17.1	▲ 9.4	▲ 0.6
	韓 国	22.1	26.0	26.4	17.5	1.7
	台 湾	10.6	8.7	9.5	▲ 17.7	9.2
	タ イ	11.2	10.5	11.2	▲ 6.9	7.1
	ベ ト ナ ム	5.7	8.1	9.1	42.6	11.8
	A S E A N 6	34.4	40.5	42.2	17.6	4.3
	イ ン ド	5.8	8.2	8.7	40.4	6.3
	(11) 計	91.9	100.5	103.9	9.4	3.4
中東	イ ラ ン	7.4	8.3	8.1	11.5	▲ 1.8
	U . A . E .	6.5	7.8	7.9	20.6	1.3
	(3) 計	18.2	20.6	20.7	13.3	0.4
欧州	E U	40.0	49.2	48.1	22.9	▲ 2.2
	ト ル コ	10.2	12.4	13.4	21.9	8.1
	ロ シ ア	5.9	7.7	8.9	30.5	15.0
	(4+1 地域) 計	59.2	73.5	75.2	24.3	2.3
北米	米 国	41.1	29.4	26.3	▲ 28.3	▲ 10.6
	カ ナ ダ	10.9	8.3	9.0	▲ 24.0	8.4
	(2) 計	52.0	37.7	35.3	▲ 27.4	▲ 6.4
	メ キ シ コ	7.8	8.8	8.7	12.6	▲ 0.8
	中南米 (2) 計	9.7	10.4	10.7	7.3	3.2
	豪 州	2.3	2.4	2.4	4.9	0.0
	22 カ国・1 地域計	233.2	245.2	248.2	5.1	1.2
(除 く 中 国)		214.2	228.0	231.1	6.4	1.4

注： 鋼材＝全鉄鋼－銑鉄－フェロアロイ、 増減率は原数による比率

(第12表) 主要国の輸入動向

		2007 年見込み	2008 年見通し
中 国		国内生産による輸入代替等から中・低グレード材を中心に引き続き減少。	新規設備の稼動に伴い、高グレード材でも徐々に国産品代替が進むなど、輸入の減少傾向が継続。
韓 国		POSCO の設備補修、厚板の供給能力不足等から、リローラー向けを中心に引き続き大幅増となる見込み。	HRC、厚板を中心に引き続き高水準の輸入が継続する見通し。
台 湾		価格の高騰もあり、年後半にかけて半製品を中心に大幅減。	中国の輸出政策の安定化に伴い、半製品輸入が徐々に回復し、前年を上回る見通し。
A S E A N	タイ	暫定政権の下、内需は低調に推移しており、輸入も引き続き低迷する見込み。	政局の安定、公共投資の増加から内需が徐々に回復してくることが期待され、前年を上回る見通し。
	マレーシア	堅調な内需に支えられ、輸入は引き続き増加の見込み。	大型開発プロジェクトに加え、石油・ガス開発の新規プロジェクトも計画されており、高水準の需要が継続。輸入も続伸する見通し。
	シンガポール	内需の好調に加え、ASEAN 各国、中東への中継基地として扱い量が増加。前年を大幅に上回る見込み。	中継基地としての扱い量は高水準維持。内需も堅調ながら、大型案件のピーク越えから前年を下回る見通し。
	インドネシア	エネルギー関連に加え、建設、自動車、二輪車等内需の好調から前年比二桁増と急回復。	需要環境に大きな変化は見られず、前年並みの輸入を見込む。
	フィリピン	公共投資、民間不動産開発等堅調な内需に支えられ、輸入は増加に転じる見込み。	引き続き堅調な需要を背景に前年を上回る見通し。
	ベトナム	拡大する国内需要の下、中国材を中心に前年を大幅に上回って推移。	中国材が減少する中、ロシア、ウクライナ等からの輸入増もあり、前年を上回る見通し。
(6) 計		堅調な内需を背景に輸入は大幅に増加に転じる見込み。	好調な内需の下、引き続き増加する見通し。
インド		外資製造業向けのハイエンド品種に加え、旺盛な建材需要向けに中国材も流入し、前年比 4 割増の見込み。	ハイエンド品種を中心に引き続き増加する見通し。
イラン		国連・米国の金融制裁の影響はあるものの、旺盛な需要を背景に中国材が大量流入し、前年を上回る見込み。	需要構造に大きな変化は無く、前年を若干下回るも 800 万トン超の高水準の輸入が続く。
U.A.E.		建設ブーム、石油関連の鋼管需要増から輸入の拡大傾向が続く。	建材、インフラ、石油・ガス関連の需要旺盛から引き続き高水準の輸入が継続。
E U		中国を始めとしたアジア勢の輸出ドライブから前年を更に上回る 5,000 万トン弱に達する見込み。	景気の減速、中国材の減少から前年を下回るも、高水準で推移する見通し。
トルコ		好調な内需を受け、ウクライナを中心に増加の見込み。	新規設備の稼動はあるも、暫くは輸入依存の構造が続き、ウクライナ、ルーマニア等からの輸入が増加する見通し。
米 国		中国材を始めとして軒並み減少。05 年の水準に戻る見込み。	年後半の回復を見込むものの、通年では前年を 1 割程度下回る見通し。
カナダ		半製品を中心としたブラジル、ロシアからの輸入が大幅減。	米国、欧州、ブラジル等を中心に緩やかに増加する見通し。
メキシコ		通商問題化している中国と国内需給が逼迫しているブラジルが減少するも、米国材の増加から前年を上回る見込み。	ユーロ高による EU からの輸入の停滞が想定されるも、引き続き堅調な内需の下、他国からの輸入増により前年並みを維持する見通し。

(参考) 主な設備新增設・閉鎖の動き

◎は上工程、年産能力の無印は新設、+印は拡張、▲印は閉鎖

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
中国	鞍山鋼鉄集团公司 鞍鋼股份有限公司 (西区、朝陽区、営口)	◎	3,800 m ³ 高炉×2	493	08 年稼動予定
		◎	2,580 m ³ 高炉×2	200	08 年 10 月稼動予定
		◎	転炉	500	09 年稼動予定
			重軌条ミル	80	07 年 4 月稼動済み
			厚中板ミル	200	09 年稼動予定
			熱延ミル	192	09 年稼動予定
			冷延ミル	96	09 年稼動予定
			冷延ミル	100	07 年稼動
			熱延ミル	200	09 年稼動予定
			継目無鋼管ミル	20→30	08 年稼動予定
			方向性電磁鋼板 (第 2 期)	10→26	10 年稼働予定
	鞍鋼新軋-蒂森克盧伯鍍鋅鋼板有限公司		溶融亜鉛めっき	42.5	08 年 6 月稼動予定
	本溪鋼鉄(集团)有限責任公司		冷延ミル	50	07 年 10 月稼動
	本溪浦項冷延薄板有限責任公司		溶融亜鉛めっき	45	07 年稼動
	安陽鋼鉄集团有限責任公司 安陽鋼鉄股份有限公司	◎	2,800 m ³ 高炉		07 年 6 月稼動
		◎	150 トン転炉	184	07 年 6 月稼動
			熱延ミル	230	08 年稼動予定
	青山控股集团 浙江青山鋼鉄有限公司		ステンレス熱延	50	07 年 12 月稼動
	内蒙古華業特鋼股份有限公司	◎	1,060 m ³ 高炉		08 年稼動予定
		◎	50 トン電気炉×2		08 年稼動予定
			連铸ミル		08 年稼動予定
			SUS 厚中板	30	08 年稼動予定
			SUS 冷延	30	07 年稼動
	奥通鋼管有限公司		溶接鋼管ミル	15	07 年着工
	河南濟源鋼鉄 (集团) 有限公司 洛陽国泰鋼鉄公司		線材ミル	40	07 年稼動
	河北津西鋼鉄股份有限公司	◎	120 トン転炉		07 年 12 月稼動
			H 形鋼ミル	120	09 年 6 月稼動予定
	邯鄲鋼鉄集团有限責任公司 邯鋼集团邯宝鋼鉄有限公司	◎	3,200 m ³ 高炉	230	08 年稼動予定
		◎	200 トン転炉×2		10 年稼動予定
			スラブ連铸×2		08 年稼動予定
			熱延ミル	460	08 年稼動予定
	邯鋼集团舞陽鋼鉄有限責任公司	◎	100 トン電気炉・連铸ミル	110	07 年 2 月稼動
			厚板ミル (1 期)	100	07 年 2 月稼動
			厚板ミル (2 期)	100→180	09 年 1 月稼働予定
	邢台鋼鉄有限責任公司	◎	580 m ³ 高炉		07 年 8 月稼動
		◎	580 m ³ 高炉		07 年 12 月稼動
	江陰泓華彩鋼板有限公司		亜鉛めっき		08 年稼動予定
	江陰興澄特殊鋼鉄有限公司		棒鋼ミル	80	07 年 6 月稼動
	江蘇其元集团 張家港市中原制管有限公司		溶接鋼管	20	07 年 8 月稼動

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
中国	江蘇誠徳鋼管股份有限公司		油井鋼管ミル	→40	08 年 12 月稼動予定
	江蘇通宇鋼管集团公司		溶接鋼管ミル	→40	07 年 4 月稼動
	杭州鋼鉄集团公司	◎	1, 250 m ³ 高炉		07 年 10 月稼動
	杭州鋼鉄股份有限公司		厚中板ミル	200	07 年稼動
			熱延ミル	320	07 年稼動
	酒泉鋼鉄		冷延ミル		09 年 6 月稼動予定
			SUS 冷延ミル	20	07 年稼動済み
			溶融亜鉛めっき×2	40/35	09 年稼動予定
	広州鋼鉄集団 広州 J F E 鋼板		冷延ミル	180	10 年稼動予定
			溶融亜鉛めっき	40	10 年稼動予定
	広州聯衆不銹鋼有限公司	◎	140 トン電気炉	80	07 年 3 月稼動
			連続鑄造	80	07 年 3 月稼動
			SUS 冷延	15	07 年稼動
	江蘇沙鋼集团有限公司		厚中板ミル	400	09 年稼動予定
	沙鋼潤忠鋼廠	◎	100 トン電炉		07 年 10 月稼動
	江蘇蘇鋼集团有限公司	◎	450 m ³ 高炉		07 年 10 月稼動
	湖南華菱集團有限責任公司 湘潭鋼鉄集团有限公司		線材ミル	60	07 年 8 月稼動
			線材ミル	45	08 年 1 月稼動予定
			厚中板ミル	140	07 年稼動
	山西宇晋鋼鉄	◎	1, 200 m ³ 高炉×2	200	07 年稼動
	山東泰山鋼鉄集团有限公司		熱延ミル		08 年 4 月稼動予定
			SUS 熱延ミル	6	08 年 2 月稼動予定
			SUS 冷延ミル		08 年末稼動予定
	四川德勝鋼廠		棒鋼・線材ミル	60	07 年 2 月稼動
	四川西南不銹鋼有限責任公司	◎	電気炉		08 年 7 月稼動予定
			SUS 熱延ミル	60	07 年 12 月稼動
	宝鋼集团公司 宝山鋼鉄股份有限公司		熱延ミル	400	07 年稼動
			方向性電磁鋼板	16	08 年稼動予定
			電気亜鉛めっき	26→30	07 年 12 月稼動
			溶接鋼管	50	08 年稼動予定
	宝鋼集團上海浦東鋼鉄 有限公司	◎	直接還元設備 (COREX)	150	07 年 11 月稼動
		◎	直接還元設備 (COREX)	150	08 年稼動予定
			厚中板ミル	120	08 年 3 月稼動予定
	宝鋼集團上海梅山有限公司	◎	3, 200 m ³ 高炉	250	08 年稼動予定
		◎	150 トン転炉	200	08 年稼動予定
			連続鑄造	200	08 年稼動予定
			熱延ミル	200	08 年稼動予定
			冷延ミル	180	08 年稼動予定
			溶融亜鉛めっき	20	09 年稼動予定
	上海克虜伯不銹鋼有限公司		SUS 熱延	51	07 年稼動
			SUS 冷延	10	07 年稼動
	新疆八一鋼鉄	◎	2, 500 m ³ 高炉×2		10 年稼動予定
	宝鋼新日鉄汽車板		溶融亜鉛めっき	45	10 年稼動予定
	四川德勝鋼廠		棒鋼・線材ミル	60	07 年 2 月稼動

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
中国	首鋼集団(首鋼総公司) 北京首鋼股份有限公司		冷延ミル	150	07 年稼動
			亜鉛めっき	60	07 年稼動
			カラーめっき	20	07 年稼動
	首鋼遷安鋼鉄有限責任公司	◎	2,650 m ³ 高炉	200	07 年稼動
	首鋼京唐鋼鉄	◎	5,500 m ³ 高炉 (第 1 期)	450	08 年 6 月稼動予定
		◎	5,500 m ³ 高炉(第 2 期)	450	10 年稼動予定
		◎	300 トン転炉×3	970	第 1 期は 08 年 6 月稼動 予定
			スラブ連铸×2	650	
			熱延ミル×2		
			冷延ミル×2		
		承德鋼鉄集団有限公司		連铸ミル	
			熱延ミル	330	08 年稼動予定
	順徳浦項鍍金鋼板		電磁鋼板	10	07 年 3 月稼動
	常熟欣瑞科技材料有限公司		溶融亜鉛めっき	30	07 年稼動
	常熟華冶薄板有限公司		冷延ミル	30	07 年 1 月稼動済み
	新興铸管集団蕪湖新興铸管公司		連铸ミル	60	07 年 10 月稼動
	深圳三海実業有限公司		冷延ミル	15	07 年稼動
	新余鋼鉄有限責任公司		薄板ミル	300	07 年着工
	新余良山鋼管有限公司		継目無鋼管	25	07 年 3 月稼動
	浙江天寶不銹鋼公司		SUS 継目無鋼管ミル	3.6	07 年 10 月稼動済み
	浙江東南金属薄板有限公司		亜鉛めっき	50	08 年 5 月稼動予定
	浙江甬金不銹鋼集団有限公司		SUS 冷延ミル	5	07 年稼動済み
	浙江永潔石油天然気鋼管 有限公司		鋼管ミル	30	07 年稼動
	陝西延長石油材料有限責任公司		油井鋼管ミル	5	07 年 2 月稼動済み
	宣化鋼鉄集団有限責任公司	◎	120 トン転炉		07 年稼動
			形鋼ミル	70	07 年 1 月稼動
	蘇州開元集団 蘇州揚子江新型材料有限公司		冷延ミル	45	07 年稼動
	太原鋼鉄(集団) 有限公司		SUS 継目無鋼管	5	07 年 12 月稼動
			SUS 冷延ミル×2	50	07 年 6 月稼動
	中国五鉱集団、営口中板		厚板ミル	200	09 年秋頃稼動予定
	中国三冶鋼管廠		溶接鋼管ミル	6	07 年 2 月稼動済み
	中山中粵馬口鉄工業有限公司		冷延ミル	15	07 年稼動
	POSCO 合併事業		ブリキ	25	07 年稼動
	長達鋼鉄有限公司		厚中板ミル	120	07 年 1 月稼動
	通化鋼鉄集団有限責任公司	◎	2,680 m ³ 高炉		07 年 9 月稼動
			熱延ミル	115	07 年 10 月稼動
			冷延ミル	100	07 年 12 月稼動
	鄭州拓普軋制技術公司、 鄭和拓普軋制技術公司		冷延ミル	200	08 年 5 月稼動予定
	天津天鉄冶金集団有限公司		熱延ミル		07 年 10 月稼動
			溶融亜鉛めっき	35	07 年稼動
	天津友発鋼管集団有限公司		継目無鋼管ミル	100	07 年 11 月着工

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
中国	唐山鋼鉄集団有限責任公司、 唐山鋼鉄股份有限公司		冷延ミル	130	07 年稼動
			溶融亜鉛めっき	40	07 年稼動
	唐山不銹鋼有限責任公司	◎	転炉	60	08 年稼動予定
			SUS 熱延	60	07 年 12 月稼動
			SUS 冷延	30	07 年 12 月稼動
	唐山国豊鋼鉄有限公司		スラブ連铸ミル	300	08 年 3 月稼動予定
			熱延ミル	300	08 年 3 月稼動予定
	唐山港陸鋼鉄有限公司		連铸ミル		07 年稼動
	唐山恒安実業有限公司	◎	750 m³高炉×2	160	07 年着工
	徳龍鋼鉄有限公司		冷延ミル	50	07 年 12 月稼動
	寧波鋼鉄有限公司	◎	2,500 m³高炉		07 年 5 月稼動
		◎	180 トン転炉	180	07 年 5 月稼動済み
			薄板プロジェクト	200	08 年 3 月稼動予定
	寧波盈展精密薄板有限公司		冷延ミル	40	07 年稼動
	馬鋼（集団）控股有限公司 馬鞍山鋼鉄股份有限公司	◎	4,080 m³高炉(1)		07 年 2 月稼動
		◎	4,080 m³高炉(2)		07 年 5 月稼動
		◎	300 トン転炉×2		07 年 9 月稼動
			スラブ連铸×2	570	07 年稼働済み
			熱延ミル	485	07 年 3 月稼動
			冷延ミル	210	07 年 7 月稼動
			亜鉛めっき(1)	40	07 年 4 月稼動
			亜鉛めっき(2)	45	07 年 7 月稼動
			カラーめっき×2	40	07 年稼動
	重慶鋼鉄集団有限公司		厚板ミル	120	10 年稼動予定
	河北普陽鋼鉄有限公司		厚板ミル	36	07 年稼働済み
	攀枝花鋼鉄（集団）公司		亜鉛めっき	→20	07 年 4 月稼動済み
	攀鋼集団四川長城特殊鋼有限責任公司		棒鋼ミル	50	07 年稼動
	攀枝花新鋼鉄		100m 軌条ミル	60	07 年稼動済み
	成都鋼鉄		継目無鋼管ミル	35	07 年稼動
	武漢鋼鉄（集団）公司 武漢鋼鉄股份有限公司		厚中板ミル	120	08 年 10 月稼動予定
		◎	2,800 m³高炉		07 年 5 月稼動
			熱延ミル	280	07 年 1 月稼動済み
			冷延ミル	150	08 年稼動予定
			電磁鋼板	20	08 年稼動予定
	武鋼集団鄂城鋼有限公司		冷延ミル	60	07 年 10 月稼動
	柳州鋼鉄	◎	転炉・連铸ミル	120	07 年末稼動（1 期）
			冷延ミル	100	07 年末稼動
	福建省三鋼（集団） 有限責任公司	◎	1,050 m³高炉	97	07 年 10 月稼動
		◎	100 トン転炉	100	07 年稼動
			厚中板ミル	80	07 年稼働済み
	福建福欣特殊鋼公司		SUS 熱延	72	09 年稼動予定
	包頭鋼鉄（集団）有限責任公司	◎	2,600 m³高炉		07 年稼動
			連続铸造	150	07 年稼動
			形鋼ミル	30	07 年 11 月稼動
			厚中板ミル		07 年 10 月稼動

国名	社名	工 程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
中国	包頭鋼鉄(集団)有限責任公司		冷延ミル	10	07年1月稼動済み
	GeneralSteel Holdings との 合弁企業		鋼管ミル	10	07年5月稼動
	北台鋼鉄(集団)有限責任公司 本溪北営鋼鉄有限責任公司	◎	120 トン転炉	413	07年1月稼動
			スラブ連铸ミル	350	07年1月稼動
			線材ミル	100	07年稼動
			熱延ミル	400	07年8月稼動
	萊蕪鋼鉄集団有限公司		厚中板ミル	180	07年稼動
	遼寧中冶徳龍鋼管有限公司		溶接鋼管ミル	40	07年9月稼動
	遼寧興利精密継目無鋼管 有限公司		継目無鋼管	7	07年8月稼動
	遼寧天祥鋼鉄有限公司		ビレット連铸他	30	07年5月稼動
	廊坊富強集団		亜鉛めっき	20	07年末稼動
	日照鋼鉄集団	◎	1,080 m ³ 高炉		07年10月稼動
			60 トン転炉		07年7月稼動
			熱延ミル	500	08年9月稼動予定
			線材ミル	30	07年2月稼動済み
	宝鶏石油鋼管+中油宝世順鋼管		溶接鋼管	15	08年夏稼動予定

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
韓国	POSCO		光陽 No.3 酸洗	80	07 年 1 月稼動済み
			浦項 No.2 冷延	+65	07 年 3 月増強済み
			浦項 FINEX	150	07 年 4 月稼動済み
			光陽 No.3 熱延	+65	07 年 11 月増強済み
			光陽 No.3 酸洗冷延	+14	07 年 11 月増強済み
			光陽 No.3 高炉巻替	+65	07 年 12 月稼動済み
			光陽 No.2 CGL	+12	07 年末増強済み
			浦項 No.2 厚板	+48	07 年末増強済み
			浦項 ブリキ	▲ 25	07 年売却済み
			浦項 ビレット圧延機	▲	07 年閉鎖済み
			浦項 大形ブルーム連铸	+100	08 年 6 月増強予定
			浦項 EGL	30	08 年 12 月稼動予定
			浦項 ステンレス冷延	40	09 年 5 月稼動予定
			浦項 方向性電磁	+8	09 年 10 月増強予定
			浦項 厚板	+110	09 年末増強予定
			浦項 厚スラブ連铸	130	10 年 2 月稼動予定
			光陽 厚板	200	10 年 7 月稼動予定
			浦項 製鋼工場	+195	10 年増強予定
	現代製鉄		唐津 A 地区 B 電炉	100	06 年末～07 年初再稼動
			唐津 B 地区熱延	+100	07 年 5 月増強済み
			仁川 電炉	100	08 年 6 月再稼動予定
			浦項 形鋼	+13	08 年下期増強予定
			仁川 鍛造用鋼塊	+20	08 年下期増強予定
			唐津 高炉一貫（一期）	400	10 年稼動予定
			唐津 高炉一貫（二期）	400	11 年稼動予定
	東国製鋼		唐津 厚板	150	09 年末稼動予定
	東部製鋼		牙山湾 電炉・熱延	250	09 年央稼動予定
			牙山湾 電炉・熱延	+100	10 年以降増強予定
	ユニオンスチール		PL/TCM（酸洗・冷延）	150	07 年 5 月稼動済み
			No.5 CGL	37	09 年 8 月稼動予定
	大韓製鋼		電炉	70	08 年上期稼動予定
	韓国鉄鋼		電炉	30	08 年稼動予定
	韓国特殊形鋼		電炉・ビレット連铸	80	08 年 12 月稼動予定
	世亜ベスチール		電炉	+20	08 年増強予定
	POSCO 特殊鋼		電炉	40	10 年増強予定
	東国産業		高炭素鋼広幅冷延	25	07 年 7 月稼動済み
台湾	中国鋼鐵		No.2 CGL	30	07 年 3 月稼動済み
			電磁鋼板	20	07 年 10 月稼動済み
			スラブ連铸	+30	09 年増強予定
			線材	30	09 年 3 月稼動予定
			No.1 高炉巻替	+36	11 年稼動予定
			No.3 冷延	150	11 年稼動予定
			No.3 CGL	40	11 年稼動予定
	中龍鋼鐵		高炉・製鋼	250	09 年 12 月稼動予定
			熱延	300	10 年稼動予定
	豊興鋼鐵		電炉	+30	07 年増強済み
			小形平鋼ミル	3	07 年 8 月稼動済み

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万t)	稼動/閉鎖年月
タイ	G Steel		熱延	180→340	09年までに増強予定
	Tata Steel Thailand		ミニ高炉	50	08年半ば稼動予定
	Thainox		ステンレス冷延	+10	07年末稼動
	Thai Special Steel Industry		線材	▲24	07年7月閉鎖済み
	Siam Tinplate		ブリキ・ティンフリー	14	09年7月稼動予定
	Siam Yamato Steel		H形鋼	30	09年央稼動予定
マレーシア	Lion Group		DRI	154	08年稼動予定
			2,580 m ³ 高炉	250	10年稼動予定
	MEGS		電気亜鉛めっき	12	07年上期稼動済み
	Mycron Steel		冷延ミル	+8	08年初増強予定
	Ornasteel		冷延ミル	18	07年4月稼動済み
	Malaysia Steel Works		電炉	+4	07年下期増強済み
	Tatt Giap Steel		電気亜鉛めっき	5	08年稼動予定
	Yung Kong Galvanising		冷延	25	07年7月稼動済み
	Ann Joo Steel		ミニ高炉	50	08年末稼動予定
インドネシア	BuleScope Steel Indonesia		亜鉛めっき	13	09年稼動予定
			カラー	10	09年稼動予定
	Master Steel		線材	35	08年末稼動予定
	Krakatau Steel		DRI	30	09年稼動予定
	Indoferro		ミニ高炉・ビレット	60	09年1Q稼動予定
	青山控股集团		ステンレス一貫製鉄所	30	10年7月稼動予定
	中国ニッケル資源控股有限公司		特殊鋼工場	300	09年初稼動予定
	Jindal Stainless Indonesia		ステンレス冷延	7→15	07年末までに増強
	Gunung Raja Paksi		冷延ミル	24	07年4月稼動済み
フィリピン	TKC Steel		高炉	40	08年末稼動予定
	Bacnotan Steel		電炉・ビレット	36	08年稼動予定
ベトナム	Hoa Sen (Lotus Steel)		冷延ミル	18	07年3月稼動済み
			溶融亜鉛めっき	15	08年稼動予定
	Sun Steel		冷延ミル	25	07年12月稼動済み
	Pomina (Thép Việt Co.)		電炉	50	07年8月稼動済み
	Cuu Long Vinashin		電炉	50	07年12月稼動済み
	Viet-Y Steel		電炉	40	08年稼動予定
	POSCO		熱延ミル	300	12年稼動予定
			冷延ミル	120	09年稼動予定
	(浦項鋼板)		溶融亜鉛・アルミめっき	30	09年8月稼動予定
	POSCO + Vinasin		一貫製鉄所プロジェクト	400	12年稼動見込み
	Essar + Vietnam Steel Corp		熱延ミル	200	09年末稼動予定
	Vinashin-Cailan		厚板	50	08年稼動予定
	Phu My Flat Steel 2		冷延ミル	20	09年稼動予定
	SSE Steel		電炉・ビレット	50	09年稼動予定
	Thai Nguyen Iron and Steel		電炉・ビレット	+50	10年増強予定
	聚亨 (Tycoons) + 燐聯鋼鉄		高炉 (一期)	200	09～10年稼動予定
	Tata Steel + Vietnam Steel Corp		一貫製鉄所プロジェクト	450	12年稼動予定
			冷延ミル	120	12年までに稼動予定
	Vietnam Steel Corp + 昆明鋼鉄		ビレット・棒鋼ミル	50	09年稼動予定
	中国鋼鉄 + 住友金属		冷延薄板工場	170	11年頃稼動予定

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
インド	Adhunik Corp		一貫製鉄所	粗鋼 110	11 年稼動予定
	Arcelor Mittal, Jharkhand , Orissa		一貫製鉄所 (第 1 期)	600	11 年度稼動予定
			一貫製鉄所 (第 1 期)	600	11 年度稼動予定
	Visa Steel		特殊鋼・ステンレス製鋼	50	10 年稼動予定
			棒鋼・線材ミル	50	10 年稼動予定
	Bhushan Power & Steel , Sambalpur		DRI	60	07 年稼動済み
			電炉	30	07 年稼動済み
			高炉	70	07 年末稼動
			電炉/熱延ミル (CSP)	90/90	07 年末稼動
	Bhushan Steel, Burdwan		薄板一貫ミル (粗鋼 200、冷延 20、亜鉛 12)	200	12 年稼動予定
	, Dhenkanal		第 1 高炉/第 2 高炉	125/250	08 年 12 月/09 年稼動
			電炉	90	08 年 12 月稼動予定
			熱延ミル	90	08 年 12 月稼動予定
	Bramhani Industries		一貫製鉄所 (第 1 期)	200	09 年稼動予定
	Electrosteel Castings		高炉	粗鋼 130	09 ~ 10 年稼動予定
			棒鋼ミル	70	09 ~ 10 年稼動予定
			線材ミル	40	09 ~ 10 年稼動予定
			鋳鉄管ミル	20	09 ~ 10 年稼動予定
	Essar Steel , Hazira 第 2 工場		Corex/DRI	180/100	09 年頃稼動予定
			高炉	100	09 年頃稼動予定
			電炉 4 基		09 年頃稼動予定
	, Hazira Plate Mill		厚板ミル	150	07 年 12 月稼動
	Ispat Industries, Dolvi		第 2 高炉	65	08 年稼動予定
			DRI	160 → 180	08 年稼動予定
			熱延ミル	300 → 360	08 年稼動予定
	Jai Balaji Group		一貫製鉄所 (第 1 期)	粗鋼 200	10 年稼動予定
	Jindal Stainless, Hisar		製鋼設備	60 → 90	10 年稼動予定
			冷延ミル	15 → 27.5	10 年稼動予定
	, Kalinganagar		100 トン電炉 × 2、	80・80	10 年・12 年稼動予定
			スラブ連铸	160	10 年稼動予定
			ステンレス熱延ミル	80・80	10 年・12 年稼動予定
			ステンレス冷延ミル	80	12 年稼動予定
	Jindal Steel and Power , Raigarh		製鉄所能力増強	300 → 600	09 ~ 10 年増強予定
			厚板ミル	100	07 年稼動済み
	, Angul		製鋼プラント	600	11 年頃稼動予定
			厚板ミル	150	08 ~ 09 年稼動予定
			線材ミル	60	08 年末稼動予定
			棒鋼・形鋼ミル	100	09 年 3 月稼動予定
			高炉・転炉	600	11 年稼動予定
	, Patratu		熱延ミル	300	11 年稼動予定
			条鋼ミル	300	11 年稼動予定
			高炉・転炉	600	11 年稼動予定
	JSW Steel, Seraikela District		4,019 m ³ × 4/転炉 × 3	1,000	12 年稼動予定
			スラブ連铸	1,000	12 年稼動予定
			熱延ミル	500	12 年稼動予定

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
インド	JSW Steel, Vijayanagar		高炉新設	320	11 年稼動予定
			第 1・2 高炉拡張	+30	09 年増強予定
			熱延ミル	250→320	08 年 9 月増強予定
			熱延ミル	320→500	09 年末増強予定
			冷延ミル	100	07 年 9 月稼動済み
	, Salboni		一貫製鉄所 (第 1 期)	300	11 年稼動予定
	Neelachal Ispat Nigam		製鋼工場・条鋼ミル	100	09 年稼動予定
	POSCO		一貫製鉄所 (第 1 期)	400	10 年稼動予定
			(最終目標)	(1,200)	16 年稼動予定
	Rashtriya Ispat Nigam , Vishakhapatnam (Vizag Steel)		3,800 m ³ 第 3 高炉	250	08 年度稼動予定
			転炉/ピレット連铸		08 年度稼動予定
			線材ミル	60	08 年度稼動予定
			特殊棒鋼ミル	75	08 年度稼動予定
			形鋼ミル	70	08 年度稼動予定
			継目無鋼管ミル	30	08 年度稼動予定
	Uttam Galva		亜鉛めっきライン	40	07 年末頃稼動
	Sail, Bhilai (Chhattisgarh 州) (製鉄能力 480→750 万 t へ) (製鋼能力 480→700 万 t へ)		第 8 高炉	約 290	10 年 4 月稼動予定
			160 t 転炉×3		10 年 4 月稼動予定
			薄スラブ連铸	120	10 年 4 月稼動予定
			ピレット連铸	278	10 年 4 月稼動予定
			形鋼ミル	100	10 年 4 月稼動予定
			軌条ミル	120	10 年 4 月稼動予定
			棒鋼・線材ミル	90	10 年 4 月稼動予定
			厚板ミル	95→142	10 年 4 月稼動予定
	, Bokaro (Jharkhand 州) (製鋼能力 450→700 万 t へ)		2,000 m ³ 第 6 高炉		11 年度稼動予定
			転炉工場	380	11 年度稼動予定
			冷延ミル	120	11 年度稼動予定
	, Durgapur (West Bengal 州) (製鉄能力 204→320 万 t へ) (製鋼能力 186→300 万 t へ)		ブルーム連铸		11 年度稼動予定
			棒鋼・線材ミル	140	11 年度稼動予定
			形鋼ミル	40	11 年度稼動予定
	, Rourkela (Orissa 州) (製鉄能力 200→450 万 t へ) (製鋼能力 190→420 万 t へ)		4,060 m ³ 第 5 高炉		10 年稼動予定
			第 1 高炉増強		10 年稼動予定
			150 t 転炉・スラブ連铸		10 年稼動予定
			熱延・厚板ミル合理化		10 年稼動予定
			非方向性電磁鋼板	18	10 年稼動予定
	, IISCO (West Bengal 州) (製鋼能力 55→250 万 t へ)		高炉		10 年稼動予定
			転炉 3 基		10 年稼動予定
			ピレット・ブルーム連铸		10 年稼動予定
			大型形鋼ミル	60	10 年稼動予定
			棒鋼・線材ミル	120	10 年稼動予定
	, 新 Burnpur 工場 (West bengal 州)		2,600 m ³ 高炉	(粗鋼)150	09 年 1Q 稼動予定
			ピレット連铸		09 年 1Q 稼動予定
	, Salem Steel (Tamil Nadu 州)		50 t 電炉	18	10 年末稼動予定
			ステンレススラブ連铸		10 年末稼動予定
			ステンレス冷延	+8	10 年末稼動予定

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
インド	Tata Steel, Jamshedpur (製鋼能力 550→1000 万 t へ)		既存高炉増強		2010 年末稼動予定
			転炉工場新設・増強		2010 年末稼動予定
			薄スラブ連铸 2 基	240	2010 年末稼動予定
			熱延ミル	240	2010 年末稼動予定
	, Kalinganagar (Orissa) (第 1 期 300 万 t)		4,300 m ³ 高炉	320	09 年稼動予定
			300 t 転炉 × 2		09 年稼動予定
			広幅スラブ	300	09 年稼動予定
	, Chhattisgarh		一貫製鉄所	500	10 年頃稼動予定
			ステンレス鋼管ミル	1.2	08 年 3 月稼動予定
	Bihar Tubes		厚板ミル	150	08 年 3 月フル稼働
	Welspun-Gujarat Stahl Rohren		UOE 鋼管	30→65	09 年 3 月稼動予定
			スパイラル鋼管	40→55	09 年 3 月稼動予定
イラン	Gambron Steel		棒鋼・形鋼ミル	50	08 年稼動予定
			電炉 2 期	200	09 年 3 月稼動予定
	Ahvaz Navard va Louleh Co		電炉鋼板工場	200	10 年稼動予定
	Ardebil Steel		電炉・ビレット連铸	50	08 年 3 月稼動予定
	Charmahal Bkhtiari Automotive Sheet Co		溶融亜鉛めっき	40	09 年末稼動予定
	Esfahan Steel		3 号高炉	140	07 年 9 月稼動予定
			4 号高炉	140	07 年建設再開
	Essar Pars Steel		DRI/ビレットミニミル	300/140	08 年建設開始
	Ferro Gilan		冷延ミル	50	07 年 8 月稼動済み
			溶融亜鉛めっき	25	07 年 11 月稼動済み
	Iran Alloy Steel Co		電炉	65	10 年頃稼動予定
			電炉製鋼工場増強	20→36	10 年 3 月増強予定
	Khouzestan Oxin Steel		厚板ミル	105	08 年 4 月稼動予定
	Khouzestan Steel		DRI	96	08 年 5 月稼動予定
	Mobarakeh Steel Co, Isfahan		溶融亜鉛めっき	40	09 年稼動予定
	Seven Diamonds Industries		冷延ミル	80	08 年 1Q 稼動予定
	South Steel Direct Reduction, Ahwaz		DRI	100	10 年稼動予定
	Tata Steel		DRI 一貫製鉄所	300	10 年稼動目標
	Vian Steel Melting and Casting		ミニミル	60	08 年夏稼動予定
サウジアラビア	Al Tuwairqi Group, Jeddah , Dammam		棒鋼ミル	120	07 年稼働
			DRI 2 基	50×2	07 年・08 年稼動
			継目無鋼管プロジェクト	75	07 年稼動目標
	Al Rajhi		電炉ビレット	85	07 年稼動済み
	Al Yamamah		棒鋼	50	08 年稼動予定
	ArcelorMittal + Bin Jarallah Group		継目無鋼管	50	09 年稼動予定
	Atoun Steel		電炉条鋼ミル	85	09 年稼動予定
	Jesco		継目無鋼管	40	07 年～08 年稼動予定
	Hadeed		DRI	176	07 年稼動済み
			電炉製鋼	140	07 年稼動済み
			熱延ミル	100	06～07 年稼動済み
			カラー鋼板	12	07 年稼動済み

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
UAE	Al Ghurair Iron & Steel ， Abu Dhabi		冷延ミル	25	08 年 1 月稼動予定
			酸洗ライン	35	07 年 12 月稼動
			溶融亜鉛めっき	20	08 年 2 月稼動予定
	Al Nasser Industries ， Abu Dhabi		DRI	20	08 年央稼動予定
			電炉ピレット	62	08 年末稼動予定
			鉄筋	65	09 年央稼動予定
	， Gulf Sponge Iron Ltd		DRI	25	08 年 4Q 稼動予定
	， Emirate Steel LLC		電炉ピレット	50	08 年 4Q 稼動予定
	， Gulf Steel Ltd		鉄筋用棒鋼	45	09 年半ば稼動予定
	Abu Dhabi National Co for Building Materials		棒鋼	30	08 年稼動予定
	Bumga Group		棒鋼ミル	40	09 年稼動予定
	Star Steel International		棒鋼ミル	36	07 年 9 月末稼動
			形鋼ミル	25	07 年末～08 年初稼動
			電炉製鋼工場	90	09 年半ば稼動予定
	General Holding ， Emirates Steel Industries		DRI	160	08 年前半稼動予定
		電炉	140	08 年末稼動予定	
		高速線材ミル/棒鋼ミル	48/62	07 年末稼動	
Conares Metal Supply		棒鋼ミル	40	08 年稼動予定	
Metalloinvest, Hamriyah Steel		棒鋼ミル	100	08 年稼動予定	

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万t)	稼動/閉鎖年月
イギリス	Alphasteel		操業停止	▲	07年操業停止
	Celsa UK		140t 電炉・ビレット連铸	製鋼 120	07年3月稼動
	Corus, Port Talbot		第5高炉	220→230	07年増強
			スラブ連铸		07年増強
	, Scunthorpe		形鋼・軌条	20	07年稼動
	Corus Packaging Plus		ブリキ	▲12	08年1月能力削減
	Falcon Steel		カラー鋼板ライン	26	08年稼動予定
	Thamessteel, Kent 工場		製鋼能力増強	+100	10年増強予定
			線材ミル	100	10年稼動予定
フランス	Arcelor-Mittal, Fos-sur-Mer		第1高炉	240→270	07年増強
			スラブ連铸	210→250	07年増強
	, Dunkerque		スラブ連铸	680→700	08年春増強予定
	Vallourec, Saint Saulve		ビレット連铸	+10	07年末増強
ドイツ	ArcelorMittal		第2 溶融亜鉛めっき	42→50	08年8月増強予定
	Eisenhuettenstadt (旧 Ekostahl)		第3 溶融亜鉛めっき	40	09年稼動予定
	Salzgitter Flachstahl		熱延ミル	350→450	10年増強予定
	Peiner Traeger		電炉	200	10年稼動予定
	ThyssenKrupp Steel, Hamborn		新8号高炉	200	07年末完成
			9号高炉改修		08年改修予定
			4号高炉休止	▲	07～08年休止
	, Beeckerwerth		熱延ミル	+100	08年以降増強予定
	, Bochum		熱延ミル	370→430	08年半ば増強予定
	ThyssenKrupp Nirosta		冷延用焼鈍・酸洗ライン	25	07年稼動済み
イタリア	ArcelorMittal, Piombino		溶融亜鉛めっき	31	08年8月稼動予定
	Arvedi Tubi Acciaio, Cremona		溶接鋼管ミル	10	08年末稼動予定
	Acciaieria Arvedi, Cremona		ESP 方式ミニミル	200	08年稼動予定
			酸洗・冷延	170	09年稼動予定
			溶融亜鉛めっき×2	35×2	09年稼動予定
	Duferdofin, Milazzo		棒鋼ミル	70→100	08年増強予定
			連铸設備	80→100	08年増強予定
	Riva, Cornigliano		溶融亜鉛めっき	47	08年稼動予定
	, Taranto		溶融亜鉛めっき	65	08年稼動予定
	Marcegaglia, Boltiere		冷間引抜鋼管	+5.5	07年再稼動済み
			冷延ミル	60	09年稼動予定
			亜鉛めっきライン×2	90	09年稼動予定
	, Ravenna		カラー鋼板ライン	22	09年稼動予定
	, Gazoldo		ステンレス冷延	30	08年10月稼動予定
	, Casalmaggiore		溶接鋼管	30	09年6月稼動予定
	Ori Martin, Brescia		ビレット連铸	45→75	09年1月稼動予定
	Stefana		鉄筋ミル	70	07年末稼動
	ThyssenKrupp Acciai Speciali		スラブ連铸	130→170	08年12月増強予定
ベルギー	ArcelorMittal, Liege		6号高炉	170	08年2月再稼動予定
ルクセンブルグ	ArcelorMittal, Rodange		鋼矢板	+15	08年増強予定
	, Differdange		電炉	+16	08年増強予定

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万t)	稼動/閉鎖年月
オランダ	Corus, IJmuiden		冷延ミル	160	08年央稼動予定
			溶融亜鉛めっき	55	08年央稼動予定
スペイン	ArcelorMittal, Gijon		厚板ミル	40→80	10年増強予定
			高炉2基	470→570	09～10年増強予定
	, Zaragosa		電炉	35→70	07年移転・増強
			棒鋼ミル	+40	07年移転・増強
	Alfonso Gallardo , Jerez de los Caballeros		形鋼ミル×2	200	07年～08年3月稼動
	Borusan Mannesmann		スパイラル鋼管ミル	5	08年稼動予定
	Ros Casares		厚板ミル・熱延ミル	100	09年稼動予定
ポルトガル	Lusosider		ブリキ	▲10	07年末稼動停止
ギリシャ	Sidenor Sovel		鉄筋	30	09年稼動予定
	Sidenor, Thessalonica		ビレット連铸	60→80	08～09年増強予定
オーストリア	Voestalpine, Linz		広幅ストリップミル	420→490	12～13年稼動予定
			No.4 溶融亜鉛めっき	45	07年稼動済み
			No.5 溶融亜鉛めっき	40	09年稼動予定
	Voestalpine Grobblech		厚板ミル	60→85	10年稼動予定
スウェーデン	Outokumpu		厚板ミル	11→19	12年フル稼働予定
			ステンレス鋼板ミル	25→65	10年稼動予定
ポーランド	Arcelor Mittal Poland, Krakow		熱延ミル	240	07年稼動済み
			冷延ミル	80→140	09年増強予定
	, Dabrowa Gornicza		スラブ連铸	300	07年稼動済み
	, Warszawa		鉄筋用棒鋼ミル	65	08年1Q稼動予定
	CMC Zawiercie		棒鋼・線材ミル	71.5	09年夏稼働予定
	Marcegaglia, Kluczbork		溶接鋼管・冷間引拔	40	09年初までに稼動予定
ハンガリー	Dunafer		熱延ミル	180→200	10年までに増強予定
			酸洗ライン	160	08年半ば稼動予定
			冷延ミル	50	08年半ば稼動予定
			めっきライン	10→45	10年までに増強予定
スロバキア	USS Kosice		溶融亜鉛めっきライン	35	07年稼動済み
ルーマニア	Mechel Targoviste		ビレット連铸	50	07年3月稼動済み
			電炉・連铸	50	09年稼動予定
ブルガリア	Intertrust Holding		冷延ミル		08年稼動予定
			酸洗ライン	40	08年稼動予定
			溶融亜鉛めっき	25	08年稼動予定
	Sidenor Stomana		棒鋼ミル	80	08年1月稼動予定
			電炉	+50	08年増強予定
トルコ	Borcelik		冷延	50→70	08年4Q増強予定
			溶融亜鉛めっき	46→90	08年4Q増強予定
	ArcelorMittal、Borusan 折半出資		熱延ミル	480	10年稼動予定
	Diler Holding, Izmit 工場		線材・鉄筋ミル	40	08年4月稼動予定
	, Asil Celik		電炉ビレットブルーム連铸	40	07年フル稼動
	Ege Celik		鉄筋用棒鋼ミル	55	08年2月稼動予定
	Icdas Celik		電炉ビレット	220	09年稼動予定
	Izmir Demir Celik		電炉ビレット	85→130	07年増強済み

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万t)	稼動/閉鎖年月
トルコ	Erdemir		厚板ミル	50	06～07年稼動済み
	Isdemir		高炉合理化工事		07年稼動済み
			転炉合理化工事		07～08年稼動予定
			スラブ連铸2基	250	06～07年稼動
			熱延ミル	350	08年中央稼動予定
	Kardemir		4号ミニ高炉新設	50	08年稼動予定
			既存ミニ高炉増強	約+25	08年増強予定
			軌条形鋼ミル	40	07年フル稼働
	Kibar Holdings		鋼板圧延工場	200	07年建設開始予定
	Assan Galvaniz		亜鉛めっきライン	10	08年稼動予定
	Colakoglu Metalurji		電炉・スラブ連铸	200	07年稼動
			熱延ミル	300	09年稼動予定
	Magnitogorsk + Alakas		電炉・スラブ連铸	240	10年稼動目標
			熱延ミル	230	10年稼動目標
			冷延ミル	75	10年稼動目標
			亜鉛めっき	90	10年稼動目標
			カラー	40	10年稼動目標
	Tezcan		溶融亜鉛めっき	40	08年稼動予定
			カラー鋼板ライン	8	07年稼動予定
ロシア	Amurmetal		電炉	115	07年稼動済み
	Arcelor Mittal		棒鋼ミル(1期)	60	10年稼動予定
	Ashinsky Steel Works		スラブ連铸	100	07年稼動済み
			平炉閉鎖・電炉導入	電炉 100	09年稼動予定
	Chelyabinsk Tube Rolling Plant		電炉・製鋼設備	95	08年稼動予定
			平炉	▲	08年閉鎖予定
			大径鋼管ミル	60	09年稼動予定
	Pervouralsk New Pipe Plant		OCTG	11.5→30	08年末増強予定
	Comtech Kashira Coated Steel Plant		溶融亜鉛めっき	20	07年稼動見込み
	Evraz Group, NTMK		5号高炉・製鋼工場	+20	07年11月合理化済み
			製鋼工場	+70	08年合理化予定
			軌条・車輪ミル		08年合理化予定
	NKMK		平炉	▲110	07年閉鎖済み
	Zapsib		1号高炉巻替		07年10月稼動済み
	Industrial Union of Donbass		電炉プレート	260	08年下期稼動予定
			中・大形形鋼ミル	120	08年下期稼動予定
			棒線ミル	120	08年下期稼動予定
	Kurum Demir		条鋼ミニミル	150	08～09年稼動予定
	Magnitogorsk (MMK)		No.2 溶融亜鉛めっき	45	08年稼動予定
			2000 熱延ミル	+50	08年増強予定
			No.2 CCL	20	09年1月稼動予定
			5000 厚板ミル	150	09年稼動予定
			2500 熱延ミル	+110	10年増強予定
			2000 冷延ミル	200	10～11年稼動予定
			No.3 溶融亜鉛めっき	45	11年稼動予定

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万t)	稼動/閉鎖年月
ロシア	Maxi Group, Revda		継目無鋼管	45	10 年稼動予定
	, Berezovsky		電炉・ビレット	150	10 年稼動予定
			線材ミル	100	08 年稼動予定
	, Kaluga		条鋼ミル	90	10 年稼動予定
			高炉	170	11 年までに稼働予定
	Mechel, Chelyabinsk		スラブ連铸	100	09 年稼動予定
			平炉	▲ 30	09 年頃閉鎖予定
	, Izhstal		電炉	40	09 年稼動予定
			製鋼・ビレット	+10	09 年増強予定
	Metalloinvest, OMK		熱延ミル	300	12 年稼動予定
			電炉・製鋼合理化		08 年までに稼動予定
	, Ural Steel		厚板ミル	85→120	08 年初増強予定
			DRI	140	07 年末稼動済み
	, LGOK		No.3 亜鉛めっき	34	07 年稼動済み
			方向性電磁鋼板	6.7→13	07 年増強
	Novolipetsk (NLMK)		No.4 亜鉛めっき	30	08 年稼動予定
			No.3 CCL	20	09 年稼動予定
			冷延ミル	40/11×2	09 年稼動予定
			7 号高炉	340	10 年稼動予定
			転炉		10 年稼動予定
			電炉	60	08 年末稼動予定
	OMZ Special Steel		形鋼ミル (Sheksna)	25	09 年稼動予定
			3 号高炉合理化	+10	09 年半ば稼動予定
	Severstal, Cherepovets		溶融亜鉛めっき	20→40	10 年稼動予定
			第 3 電炉/条鋼圧延	150	11 年稼動予定
	, Saratov		電炉鉄筋工場計画	100	10 年頃稼動予定
			電炉形鋼工場計画	100	10 年頃稼動予定
	, Nizhny Novgorod		電炉	+25	08 年増強予定
			棒線ミル	50	09 年稼動予定
	Sulinsky Steel Plant		製鋼設備	100	10 年稼動予定
			電炉 (平炉置換え)	100	08 年稼動予定
	TMK, Seversky Tube Works		溶接鋼管 (OCTG)	15	09 年稼動予定
			継目無鋼管	45	09 年稼動予定
	, Taganrog Metallurgical Works		電炉 (平炉置換え)	100	09 年稼動予定
			製鋼	+10	07 年増強済み
	, Volzhsky Pipe Plant		継目無鋼管	+33	08 年央増強予定
			大径鋼管	65	08 年 10 月稼動予定
	OMK, Vyksa Steel Works		大径鋼管	57→95	07 年増強見込み
			厚板ミル	120	10 年稼動予定
	Estar Group		電炉・ビレット	75	07 年稼動済み
			鉄筋・線材		08 年稼動予定
	, Rostov Steel Works		電炉・条鋼 (Bashkortostan)	55	08 年以降稼動予定
			電炉・条鋼 (Tyumen)	55	09 年稼動予定
	Ural Mining and Metallurgical Company		電炉・条鋼	22	07 年稼動
	Yartsevo Foundry and Rolling Plant				

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万t)	稼動/閉鎖年月
ウクライナ	Metinvest Holding, Azovstal		第1・5高炉合理化		12年までに完了
			平炉工場閉鎖	▲	12年までに閉鎖
			300トン転炉2基		12年までに稼動
			スラブ連铸新設合理化		12年までに完了
			熱延ミル	360	12年までに稼動
	, Yenakievo Iron & Steel		1,513 m ³ 5号高炉	105	07年稼動済み
			高炉改修・建替	+100	12年までに完了
			連铸圧延設備	100	12年までに稼動
	, Makeevka Steel Plant		鉄筋	70	07～08年稼動
			新電炉ビレット工場	130	09年末稼動予定
	Interpipe, Dnepropetrovsk		製鋼	22→35	09年央増強予定
	, Nikopol		高炉補修合理化	+190	10年までに完了目標
			平炉閉鎖・転炉新設	+250	10年までに完了目標
			スラブ連铸	500	10年までに稼動目標
			ビレット連铸	500	10年までに稼動目標
			熱延ミル	450	10年までに稼動目標
	Ilyich Iron & Steel		平炉閉鎖・転炉新設		10年までに完了目標
			スラブ連铸	100	06年末～07年初稼動
	Zaporizhstal		平炉閉鎖・転炉新設		14年までに完了目標
	Industrial Union of Donbass , Alchevsk Iron & Steel		1号高炉再建	220	06～07年稼動済み
			2号高炉	380	09年稼動予定
			300t 転炉工場（平炉置換）	280	07年稼動済み
			300t 転炉工場（平炉置換）	280	08年稼動予定
			スラブ連铸		06～07年稼動済み
			厚板ミル合理化	約+20	07年稼動済み
	, Dneprovsky Iron & Steel		製鉄・製鋼工場合理化		07年完了
			連铸・圧延工場合理化		08年完了予定
	Vorskla Steel		DRI	340	09年稼動目標
			電炉スラブ	300	09年稼動目標

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
カナダ	ArcelorMittal, Dofasco , Contrecoeur		ブリキライン 2 基→1 基へ	約 ▲20	07 年 11 月発表
			形鋼ミル	80	10 年稼動予定
			熱延ミル	▲65	08 年 1 月閉鎖予定
			冷延ミル	▲45	08 年 2 月閉鎖予定
	SSAB Ipsco		鋼管ミル(大径管)	35→50	08 年上期稼動予定
米国	AK Steel		電磁鋼板	→34.4	08～09 年増強予定
			新電炉 (旧電炉置換)	約+40	09 年末稼動予定
	ArcelorMittal		厚板ミル(軍需用)	(+)5	08 年以降稼動予定
	ArcelorMittal, Weirton		熱延ミル	▲380	07 年 12 月閉鎖
			ブリキミル	62.5→95	08 年増強予定
	, Gary Plate Mill		厚板ミル	53	07 年再稼動済み
	Berg Steel Pipe		鋼管	18	08 年半ば稼動予定
	California Steel Industries		熱延ミル	200→300	09 年稼動予定
	Commercial Metals Co		マイクロミル (鉄筋)	28	09 年稼動予定
	Magnitogorsk		冷延薄板ミル	100～250	07 年米国当局の認可
	Essar, Minnesota Steel		DRI 電炉一貫	250	09 年以降稼動目標
	North American Stainless		焼鈍酸洗ライン	112.6	08 年 12 月稼動予定
			冷延ミル	22.5	09 年 4 月稼動予定
	Nucor, Blytheville		Castrip	50	08 年稼動予定
	, Memphis		棒鋼ミル (SBQ)	85	08 年稼動予定
	, Decatur		亜鉛めっき	50	08 年稼動予定
	Outokumpu, New Castle		厚板ミル	5→7	12 年フル稼働予定
	PSL-North America		スパイラル鋼管ミル	30	08 年後半稼動予定
	SeverCorr (当初は熱延 50、冷延 60、表処 40 万 t 生産予定)		電炉・薄板一貫工場	150	07 年順次稼動済み
				150→340	09～10 年増強予定
	Severstal North America , Michigan		酸洗・冷延ミル(旧ミル置換)	210	09 年稼動予定
			溶融亜鉛めっき		10 年稼動予定
	Steel Dynamics, Columbia City (形鋼・軌条 年産 200 万 t へ)		ビレットブルーム連铸	100	08 年稼動予定
			中形形鋼ミル	100	08 年稼動予定
	, Butler		薄板ミル	250→300	09 年までに増強予定
	, Pittsboro		棒鋼ミル (SBQ)	50→72.5	09 年増強予定
	, Jeffersonville		コーティングライン	19	08 年稼動予定
	Stupp		スパイラル鋼管ミル	15～18	09 年初旬稼動予定
	ThyssenKrupp		熱延ミル	540	10 年稼動予定
			冷延ミル	250	10 年稼動予定
			ステンレス工場	100	10 年稼動予定
	U.S.Steel, Texas(旧 Lone Star)		電炉製鋼・熱延設備	▲50	07 年閉鎖
	United Spiral Pipe (USS + Posco + 世亜)		溶接鋼管	30	08 年後半稼動予定
	Welspun-Gujarat Stahl Rohren		SAW 鋼管ミル	30	08 年央稼働予定
メキシコ	Industrias CH		棒鋼ミル	▲15	07 年閉鎖
	Ternium Mexico		熱延ミル	+73	07～08 年増強予定
			冷延ミル	+53	08 年増強予定
			亜鉛めっき	160→190	07 年増強
			カラー鋼板	91→100	07 年増強

国名	社名	工程	設備名	年産能力 (万 t)	稼動/閉鎖年月
メキシコ	Ahmsa		高炉 (旧式高炉置換)	130	09 年稼動予定
			厚板ミル	50 → 100	08 年下期稼動予定
			形鋼ミル	20 → 35	08 年下期増強予定
	POSCO		CGL	40	09 年下期稼動予定
ブラジル	ArcelorMittal, Tubarao		第 3 高炉	250	07 年 7 月稼動済み
			熱延ミル	280 → 400	09 年稼動予定
			溶融亜鉛めっき	40	09 ~ 10 年稼動予定
	CSN		電炉条鋼ミル	50	08 年末稼動予定
			スラブー貫製鉄所	450	10 ~ 12 年稼動予定
	Gerdau Acominas		2 号高炉	150	07 年 10 月稼動済み
			スラブ連铸	150	08 年稼動予定
			形鋼ミル	50 → 90	09 年 ~ 10 年増強予定
	Gerdau Group		新厚板工場	87	10 年頃稼動予定
	Tubos Soldados Atlantico		溶接鋼管	9	07 年 3 月操業
	ThyssenKrupp CSA		3,800 m ³ 高炉 2 基	530	09 年稼動予定
			製鋼・スラブ連铸	500	09 年稼動予定
	Votorantim Metais		製鋼・ビレット	55 → 72	07 年増強済み
			電炉条鋼ミル	100	09 年稼動予定
	Usiminas, Cubatao		スラブ連铸	-	08 年 1Q 稼動予定
			熱延ミル	400	11 年までに稼動予定
	, Ipatinga		新高炉	220	11 年までに稼動予定
			厚板	+50	11 年までに増強予定
			熱延	+60	11 年までに増強予定
	, Unigal		No.2 溶融亜鉛めっき		11 年までに稼動予定
	Vallourec & Sumitomo Tubos do Brasil		高炉	100	10 年稼動予定
			継目無鋼管	60	10 年稼動予定
	Ceara Steel (東国、CVRD)		スラブー貫製鉄所	250	11 ~ 12 年稼動予定
	Baosteel CSV (宝鋼、CVRD)		スラブー貫製鉄所	500	11 年稼働予定
	Cia. Sid. do Planalto		電炉・条鋼	40	09 年稼動予定
	Acos Cearense		電炉・条鋼	30	08 年稼動予定
豪州	BlueScope Steel		ブリキ	▲	07 年閉鎖
	Boulder Steel		電炉	35	09 年稼動予定
			継目無鋼管	17.5	09 年稼動予定